

# ふたなりの国物語

## 第一巻



18禁 成人向  
ADULT ONLY

制作 不知火模型店

本誌は成人向けに制作されておりますので  
18歳未満の方の配布は禁止しております

ご購入は18歳以上の成人の方に限らせて頂きます。  
購入後はお子様の手の届かないところへ保管し、人目の無い場所での鑑賞をお願いします。

# ふたなりの国物語 第一卷

18禁 成人向  
ADULT ONLY

古堡歎火咲不 卦陣

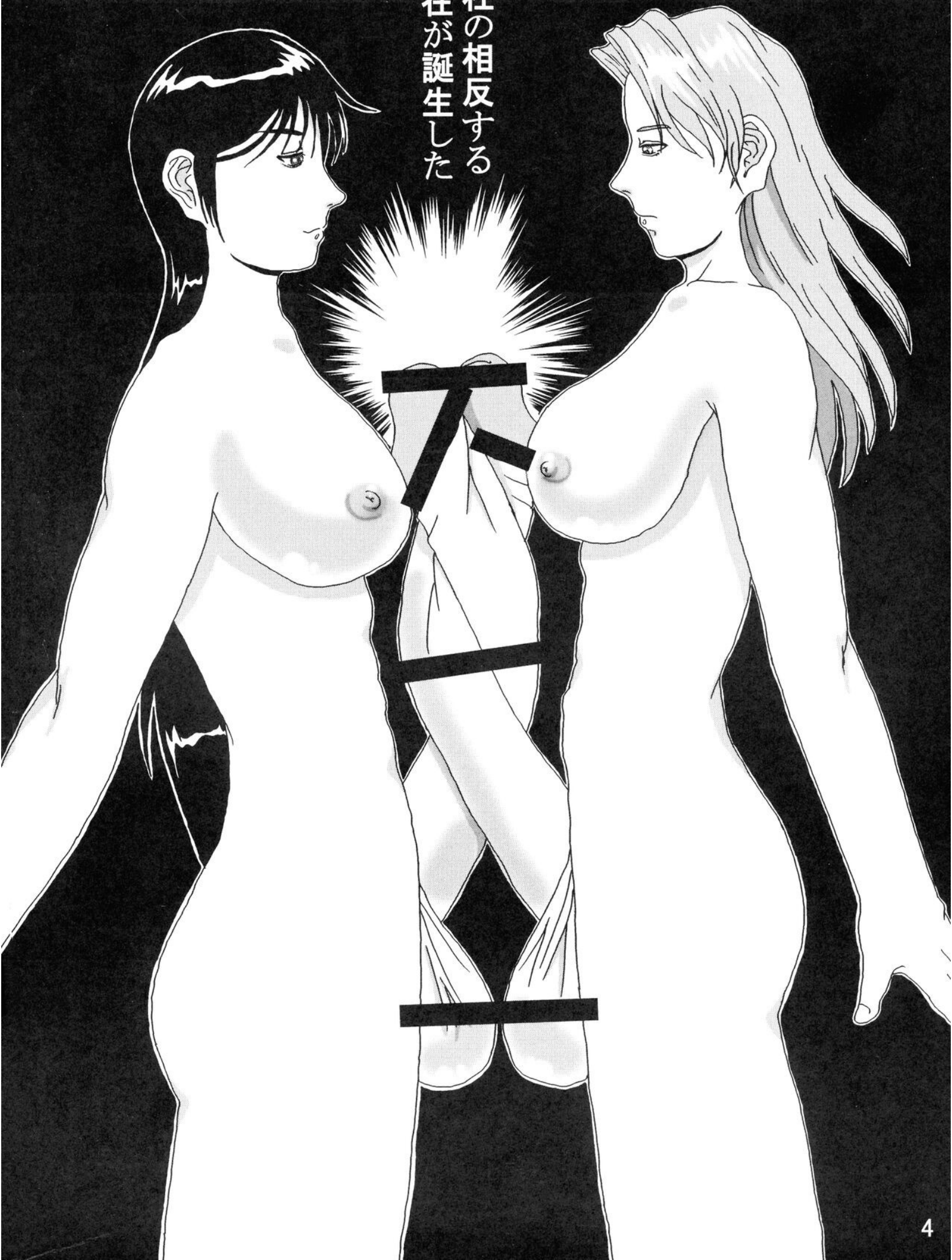


。たまき取ア身ちさ期コ式の人知の土以歳81お人類こ  
。たまじの隠はち賞鑑のか預集ハ無の目人ハ「管界へさころハが依鼠の手の終干はは為人類

このまおいはア外ち卦陣コヤ向人類お類本  
まおいはア「18禁お市頭の式の歳未歳81

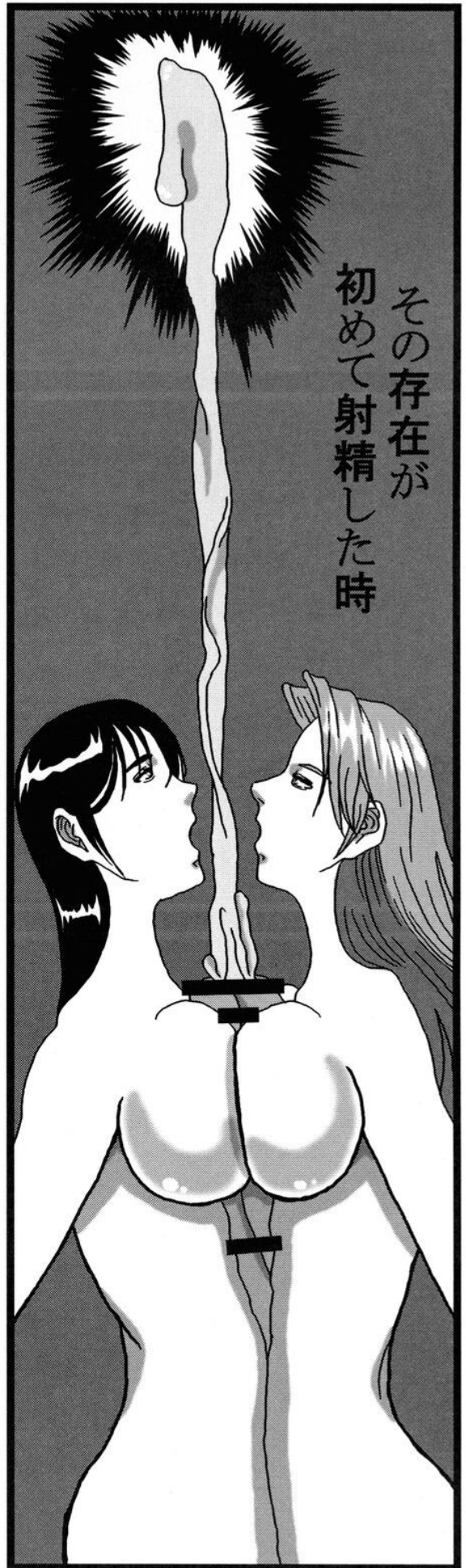
全てが有であり、全てが無であつた混沌とした世界

二柱の相反する  
存在が誕生した

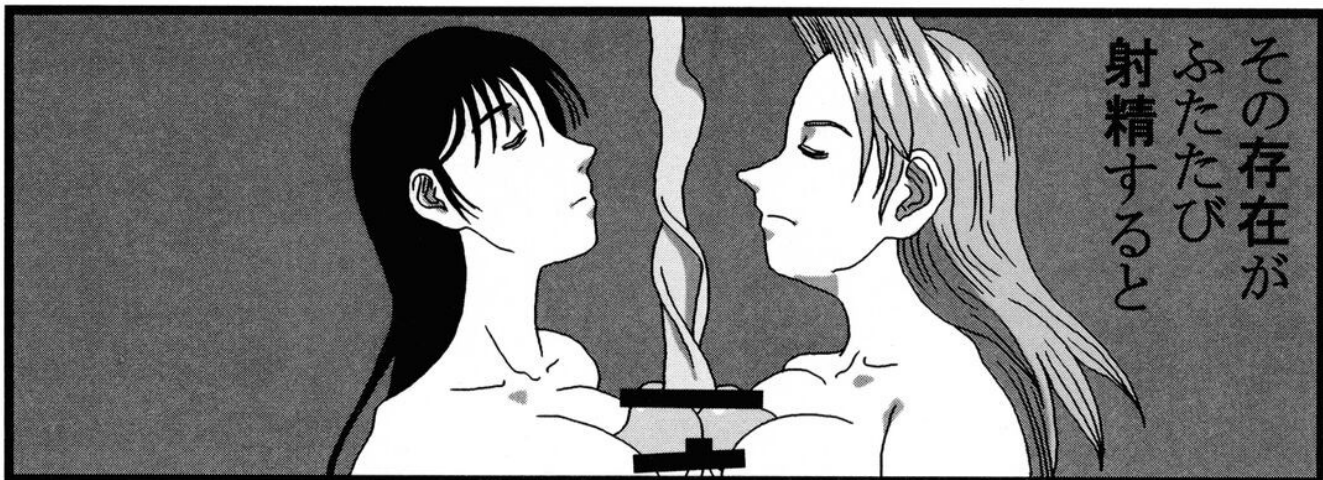




その精液で  
混沌とした空間に  
地面が造られた



その存在が  
初めて射精した時

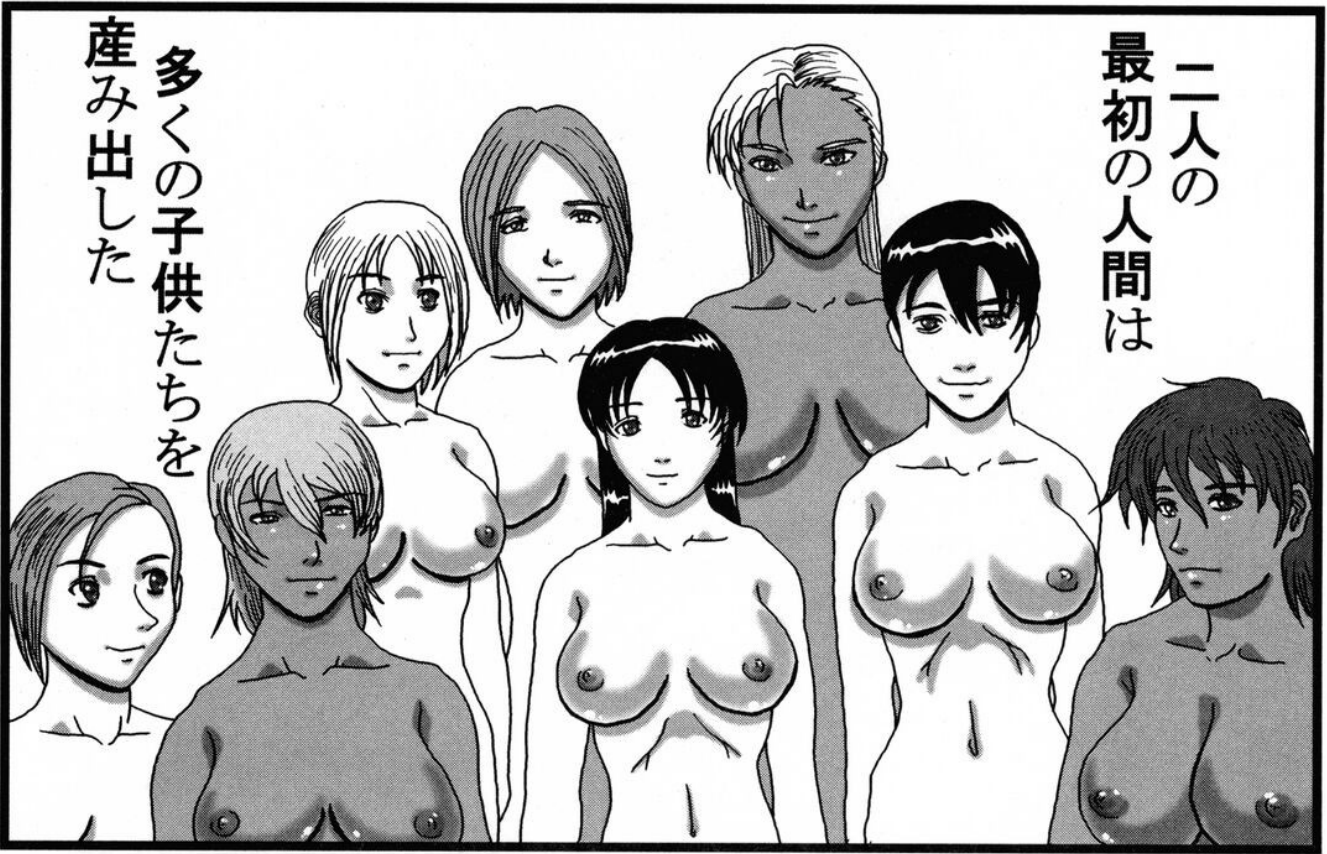


その存在が  
ふたたび  
受精すると



二人の二柱の  
存在に良く似た  
人間が生まれた

二人の  
最初の人間は

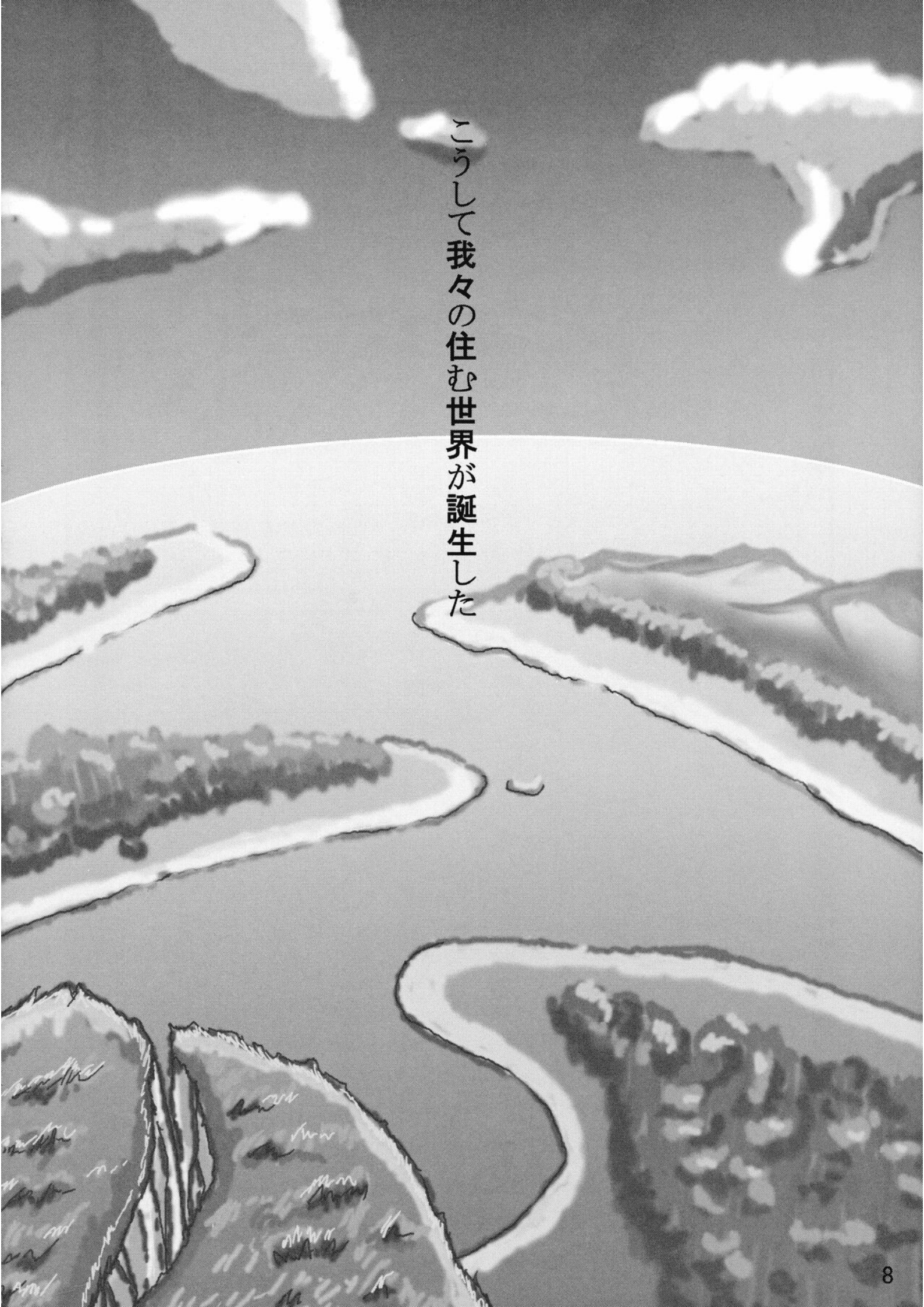


多くの子供たちを  
産み出した

その後、二人の最初の人間の一人は  
天へ溶け出し空と雲へと姿を変えた

もう一人は地へと溶け出し大地と海と  
草木へと形を変えた





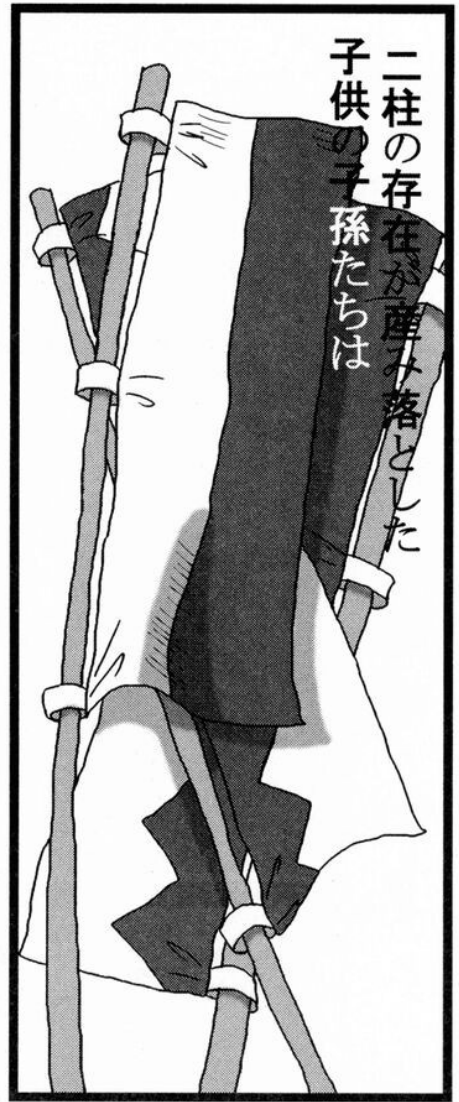
こうして我々の住む世界が誕生した



ふたなりの国物語 第一卷



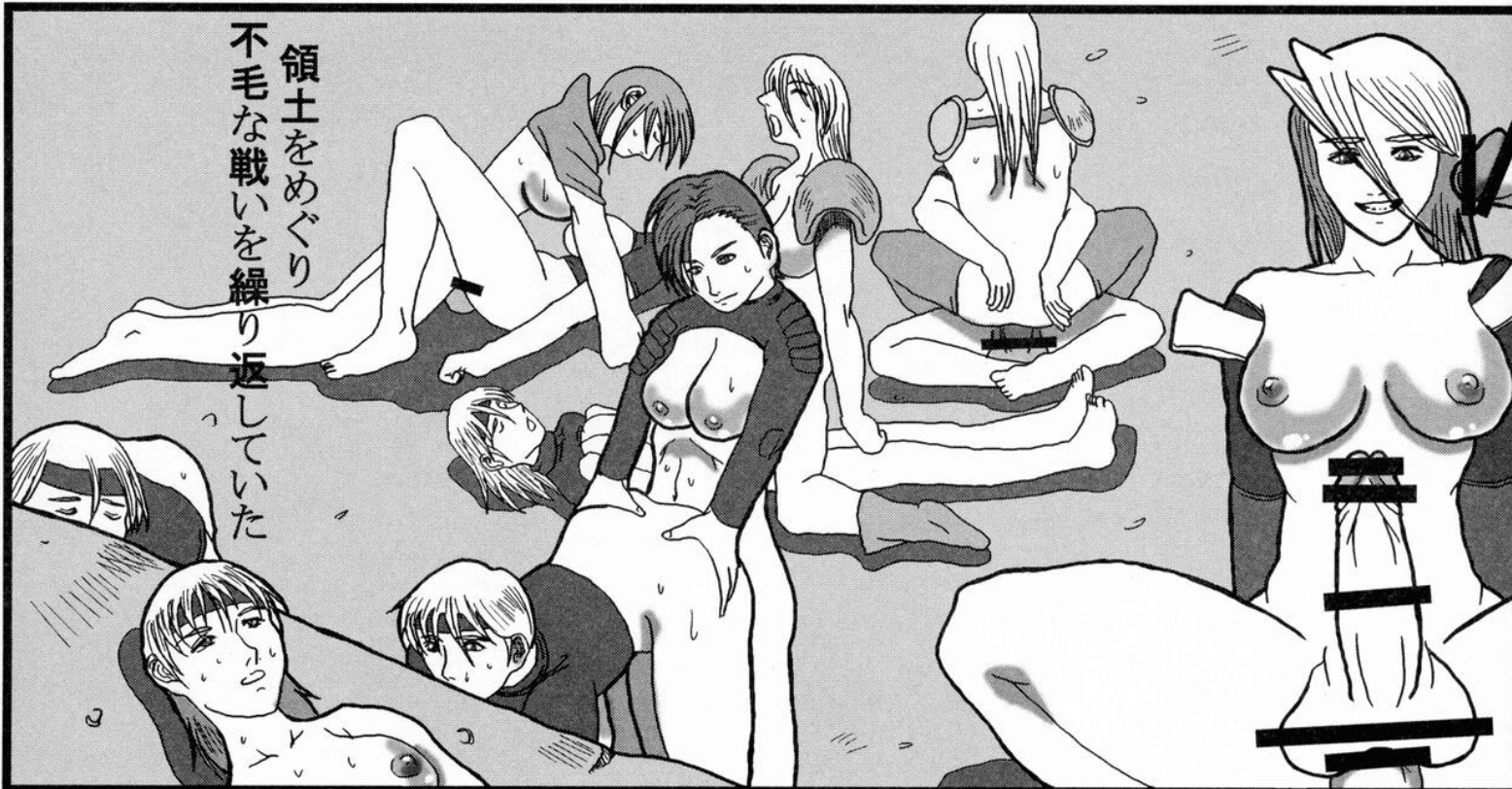
フェアレン王国  
外人傭兵部隊  
約千五百人



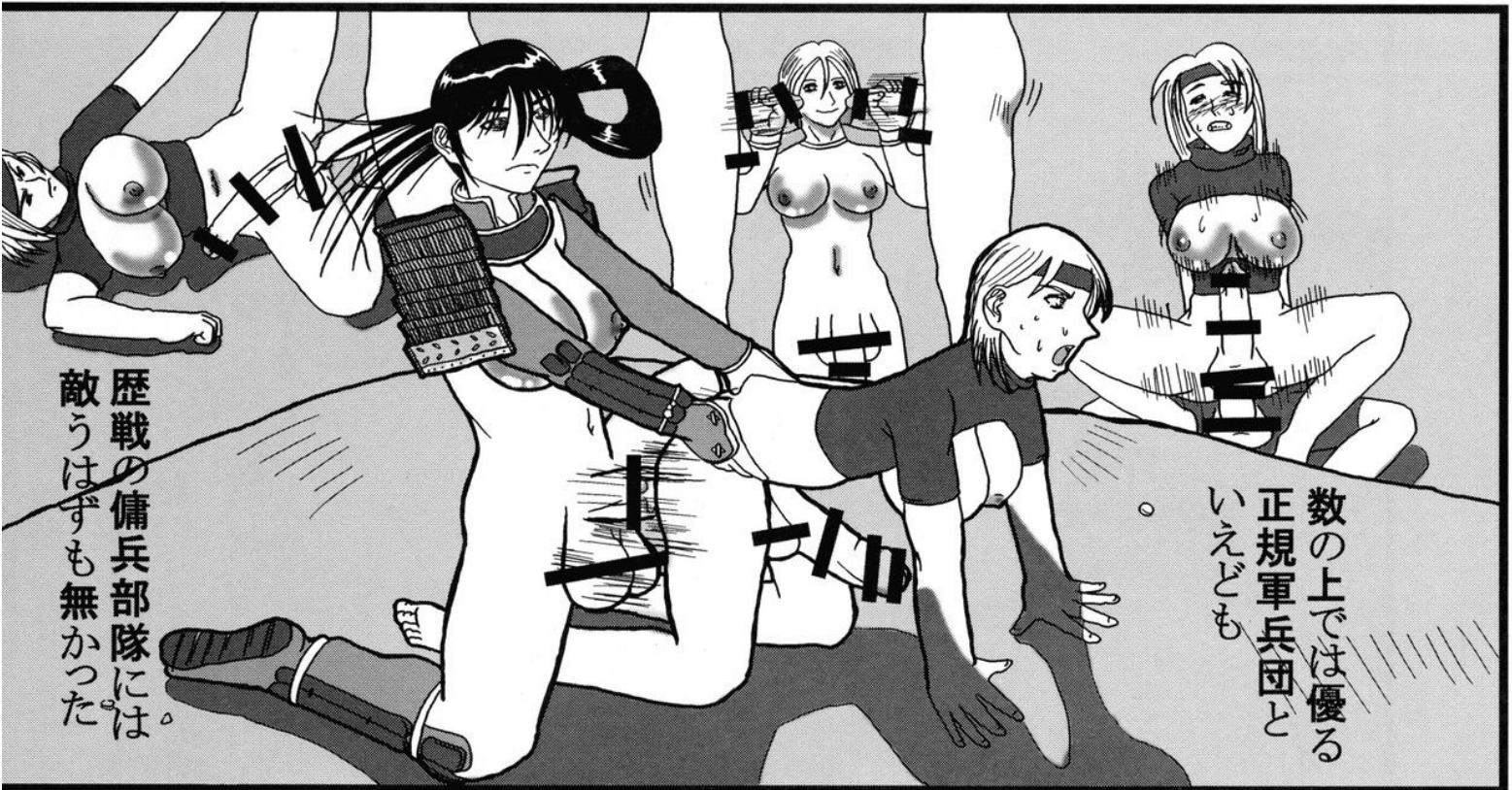
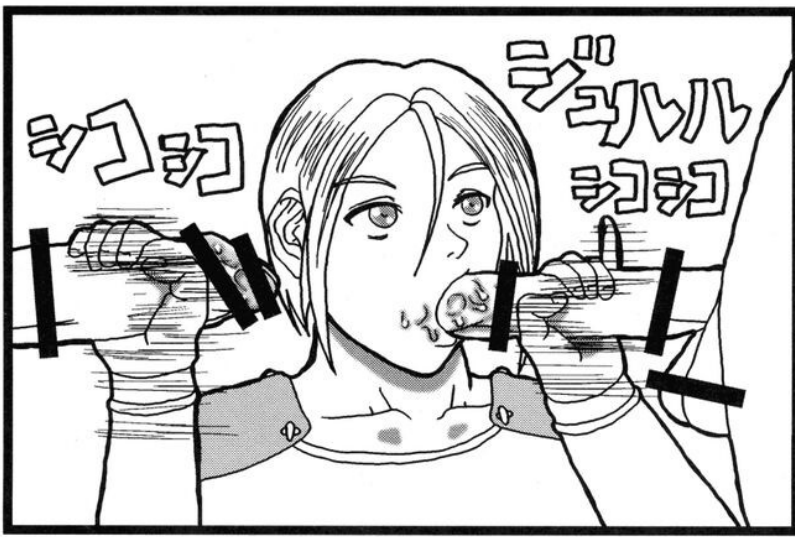
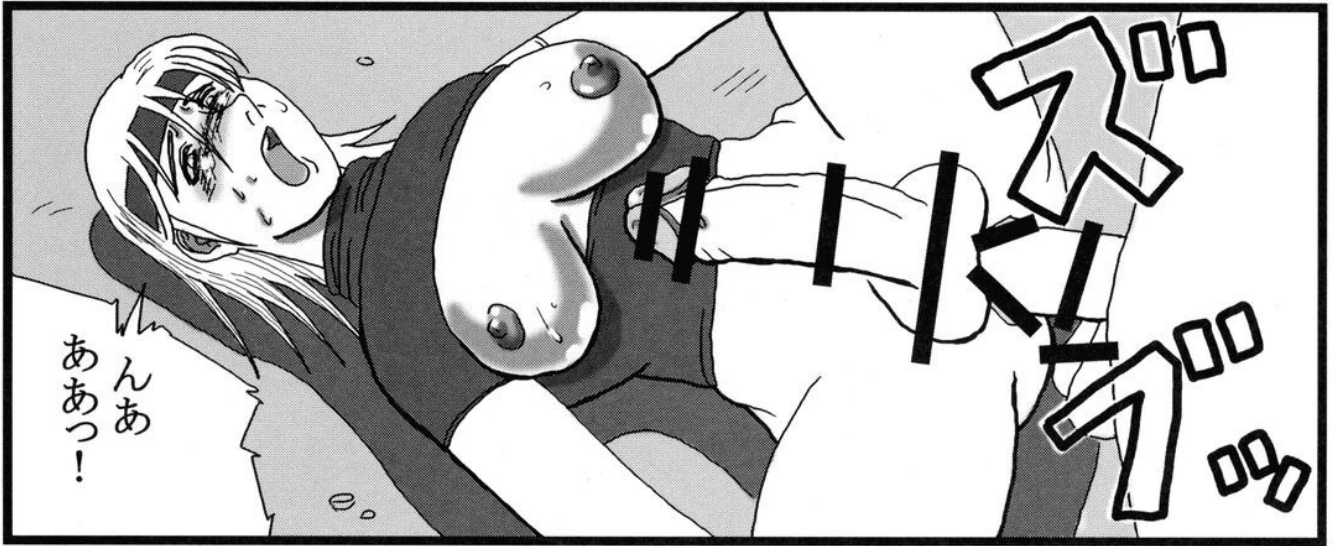
二柱の存在が塵み落とした  
子供の子孫たちは

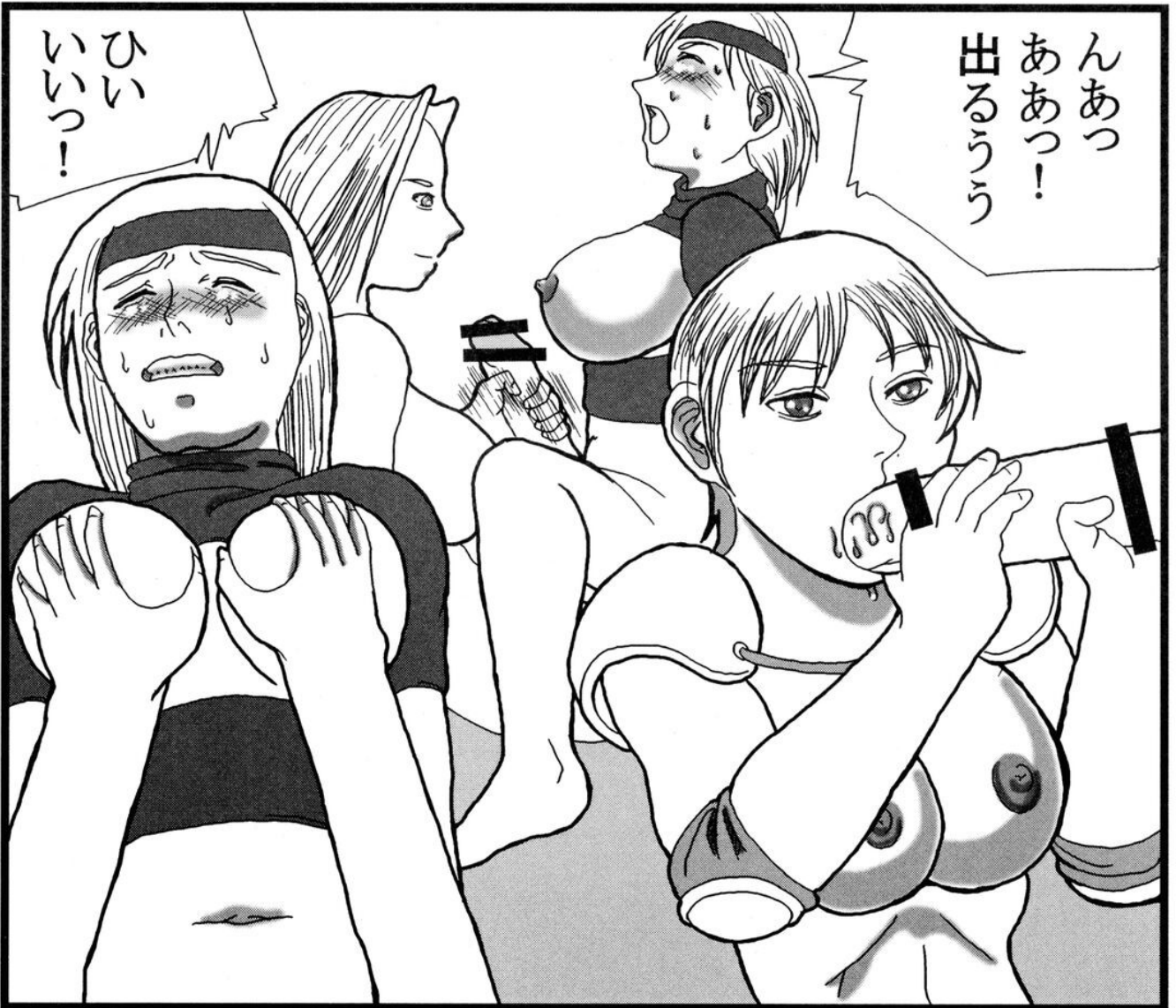
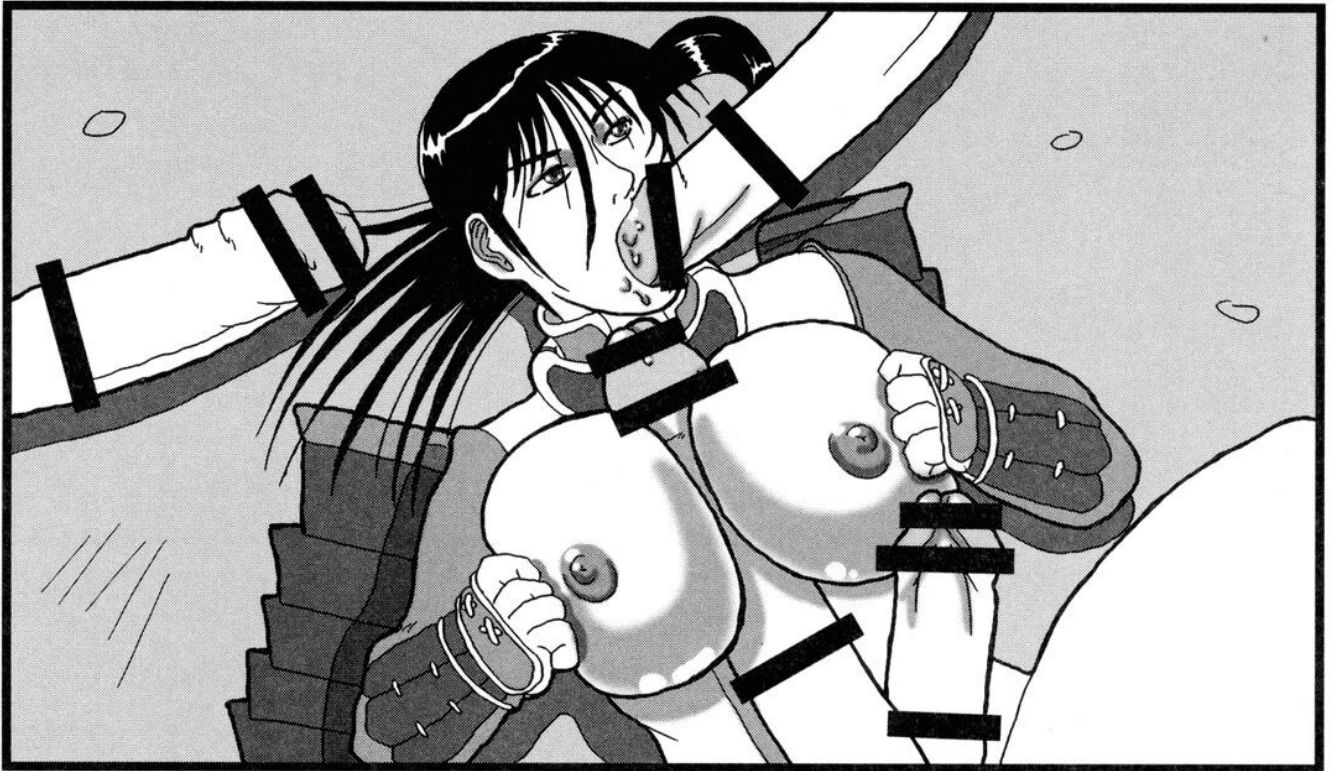


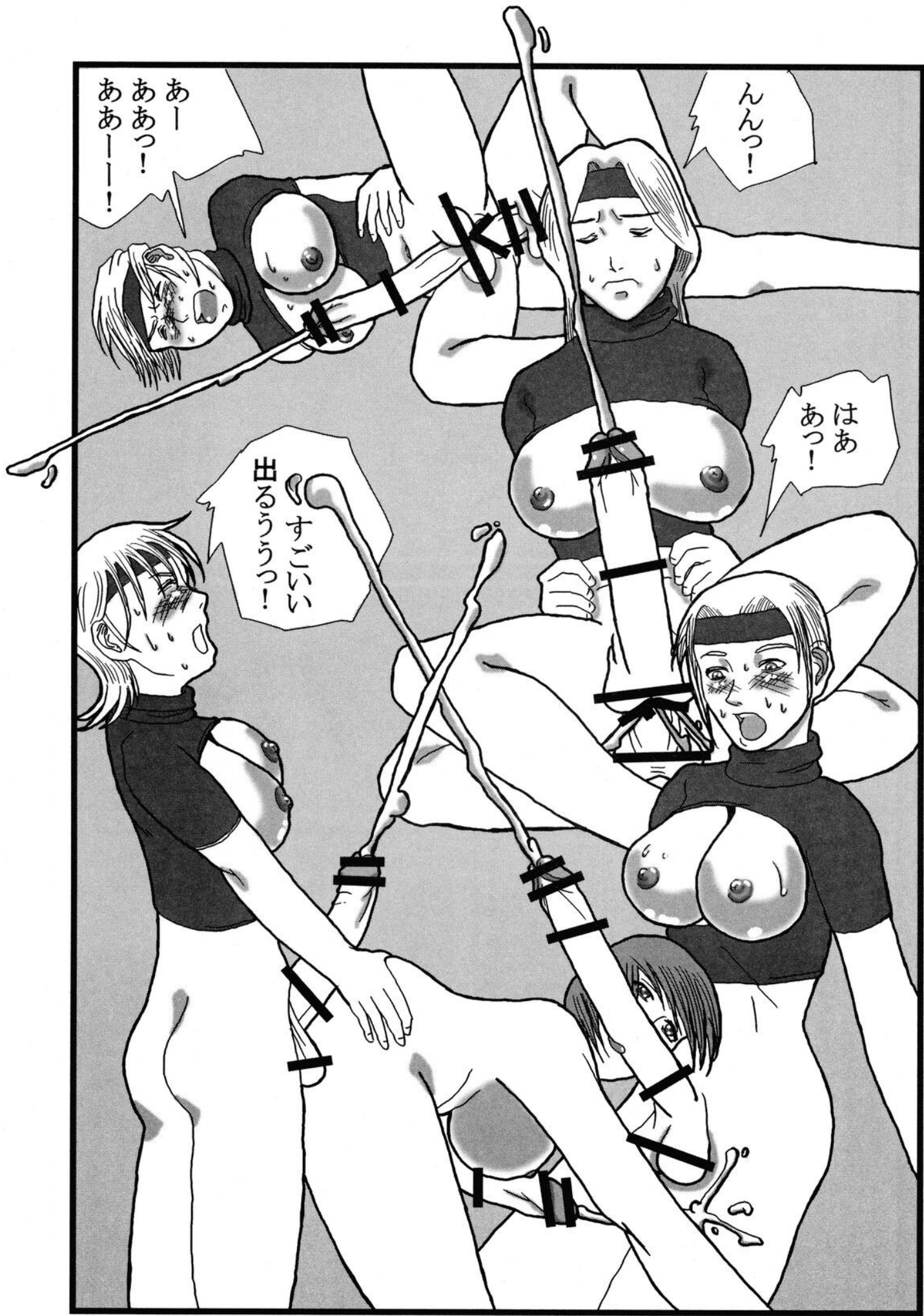
ウルバス共和国  
正規軍兵団  
総数約三千人



領土をめぐり  
不毛な戦いを繰り返していた





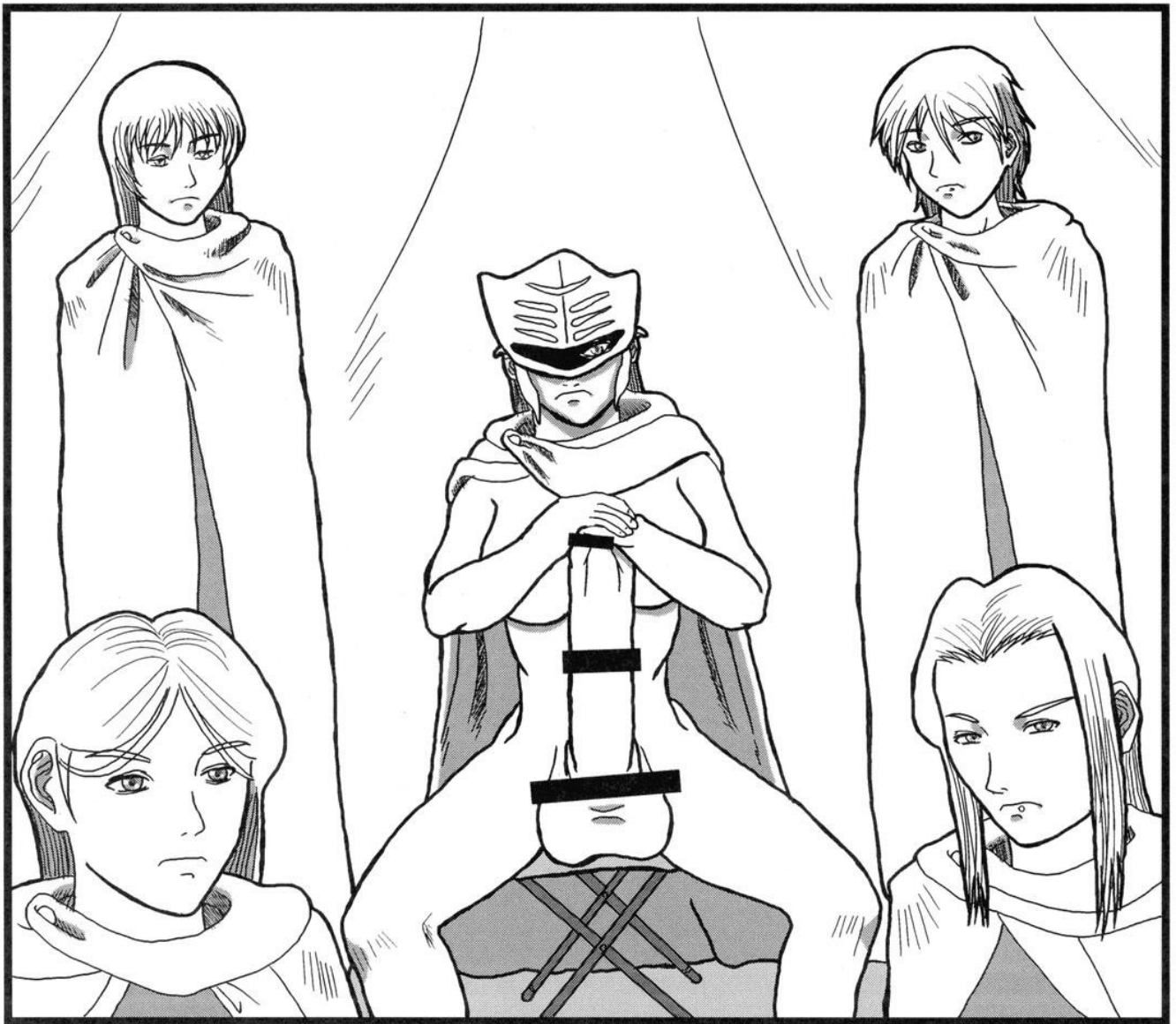


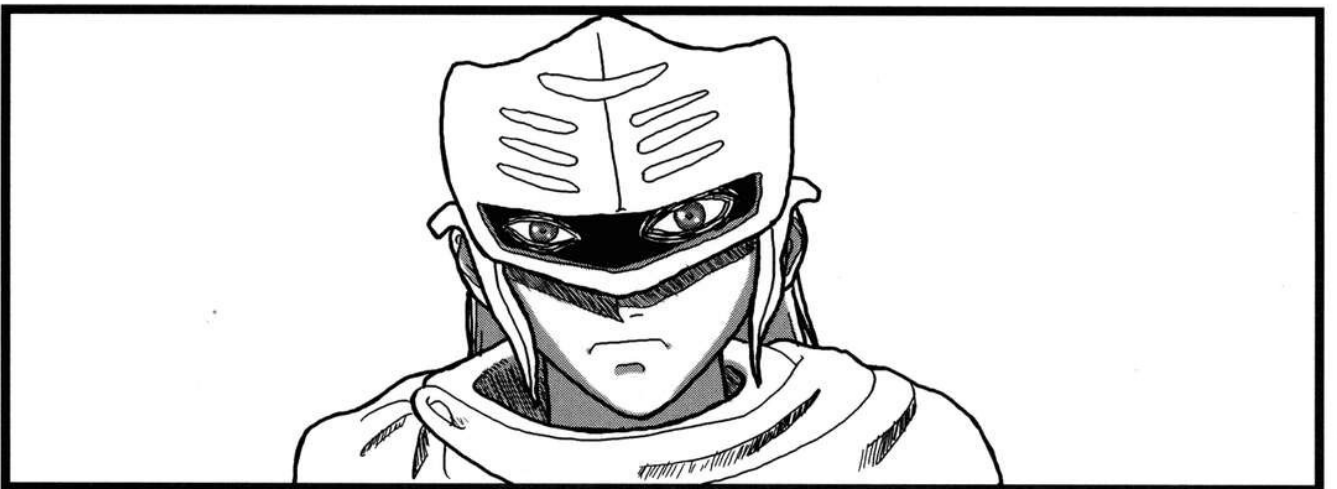
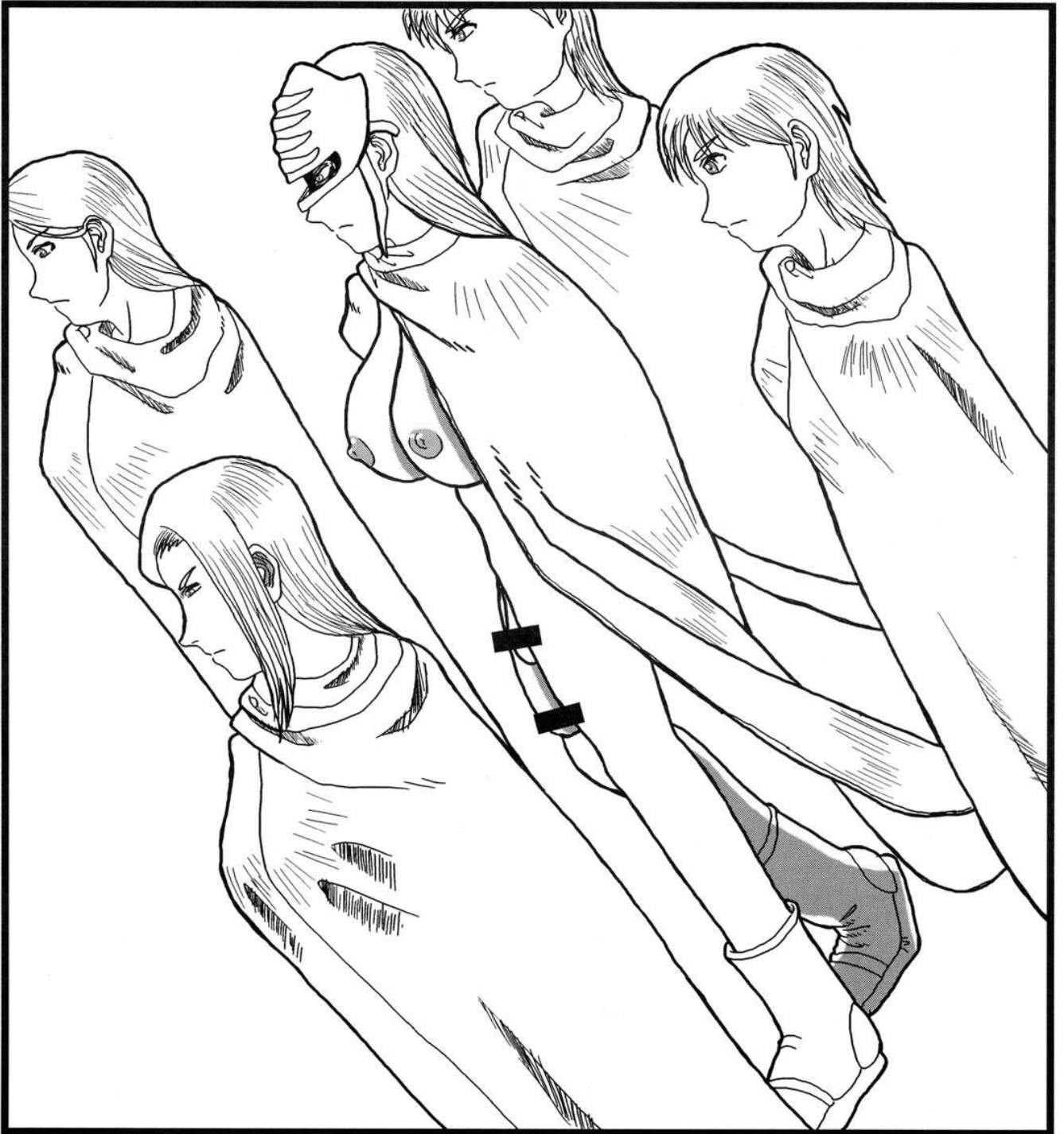
あー  
ああっ!  
ああー!!

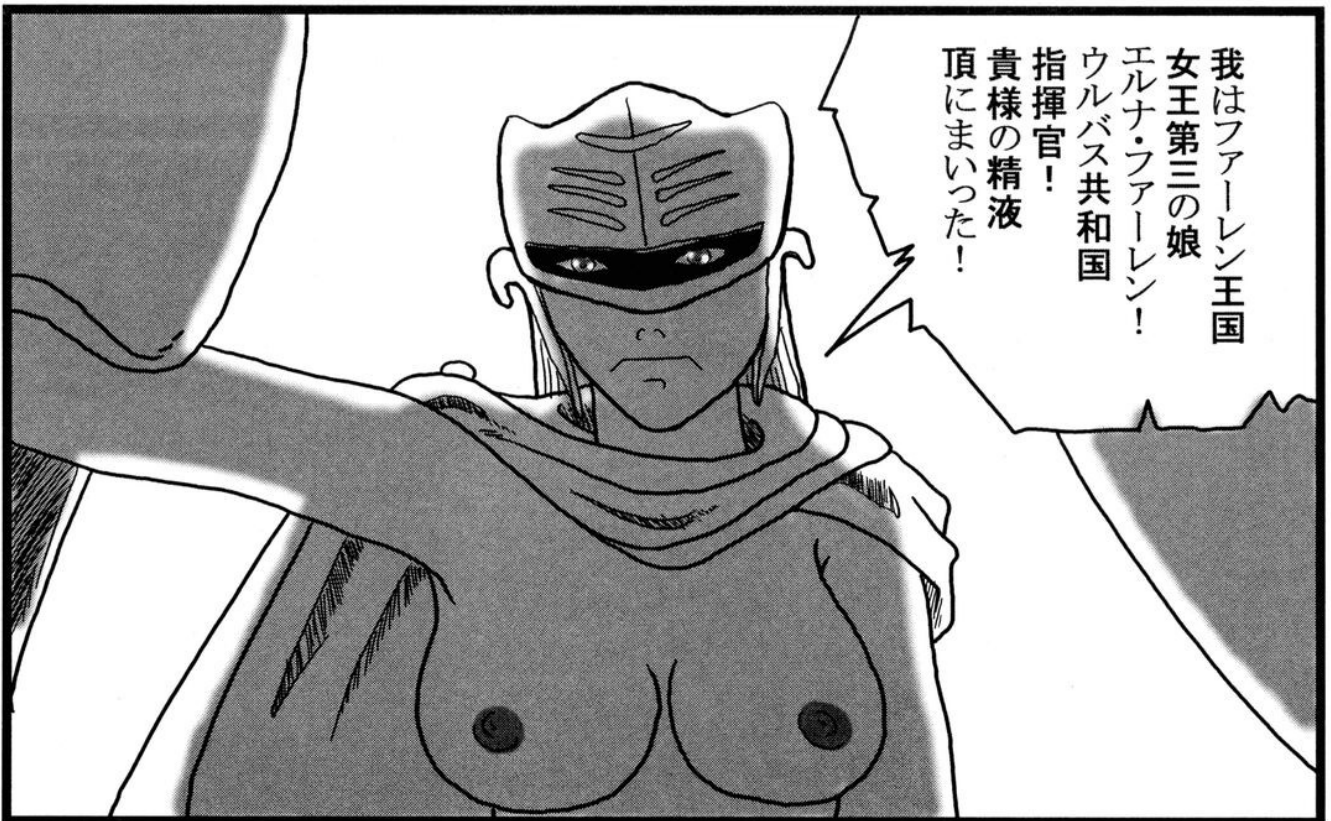
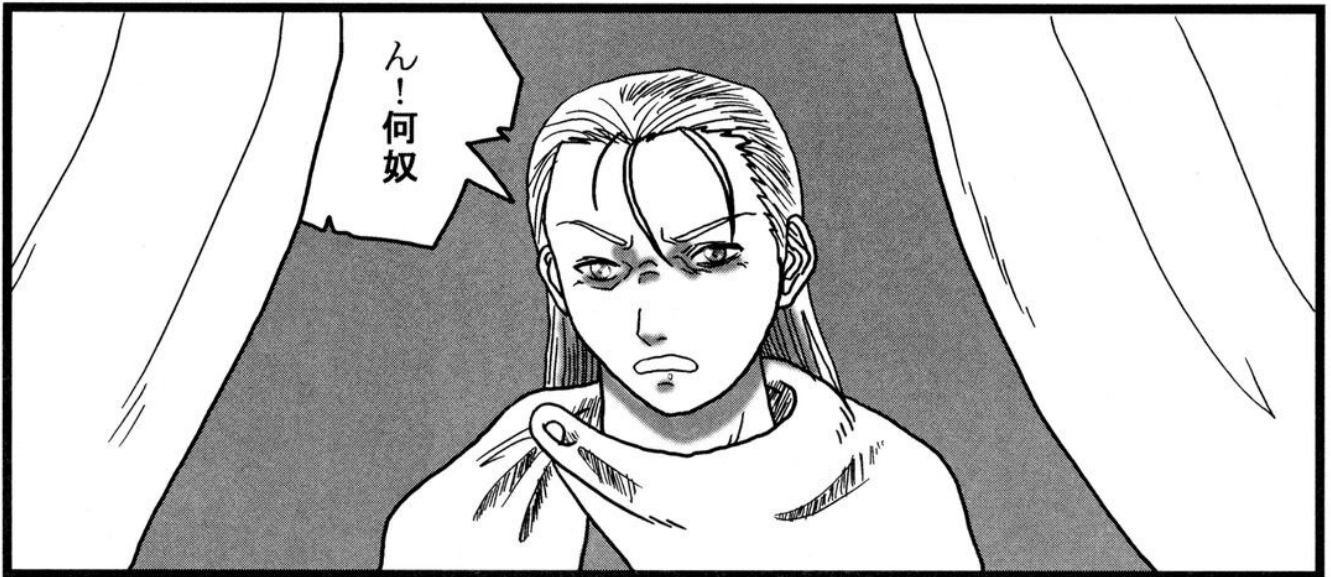
んんっ!

はあ  
あっ!

出るっすいっ!  
ぐうぐうっ!









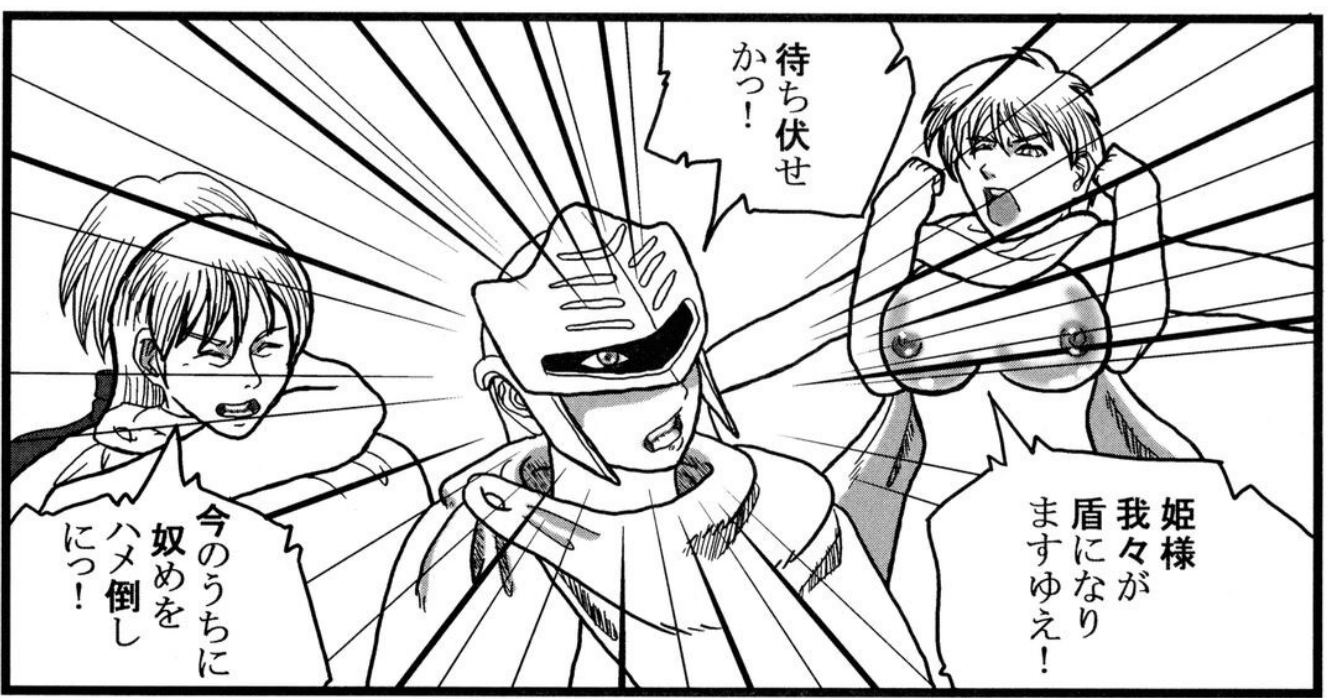
貴様も  
ふたなり  
ならば  
おとなしく  
我に犯され  
よ！



この愚か者どもに  
ウルバスの  
意地を  
思い知らせて  
やれ！



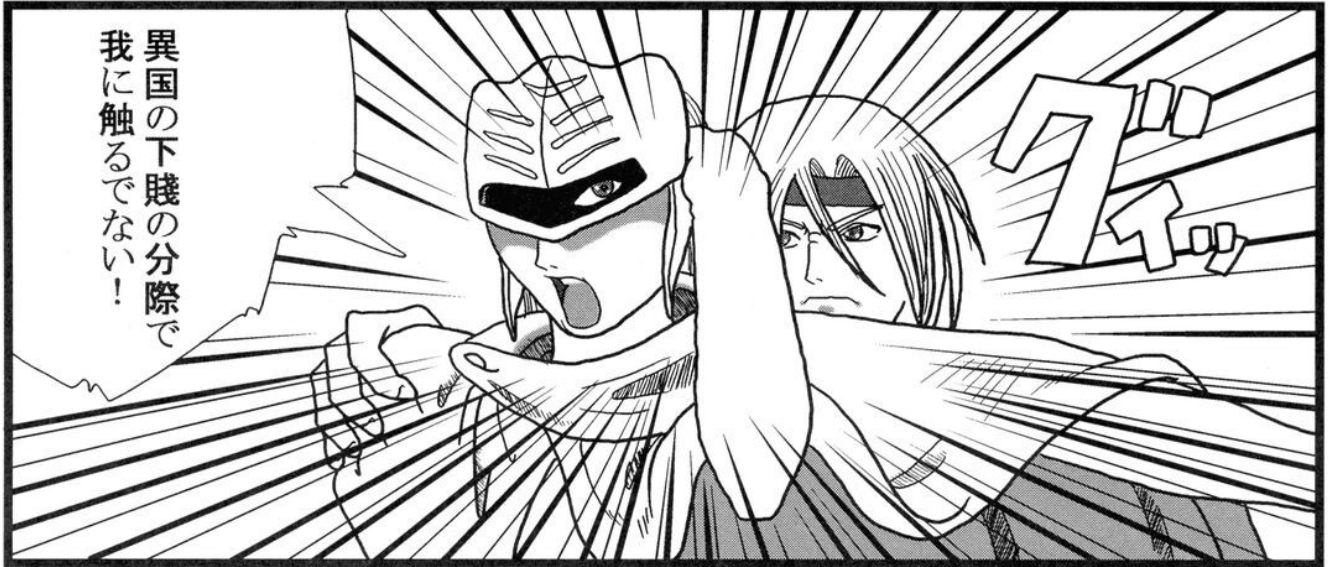
ええいつ！  
影の者どもよ  
であえ  
であえ！



待ち伏せ  
かつ！

今のうちに  
奴めを  
ハメ倒し  
にっ！

姫様  
我々が  
盾になり  
ますゆえ！



異国の下賤の分際で  
我に触るでない!

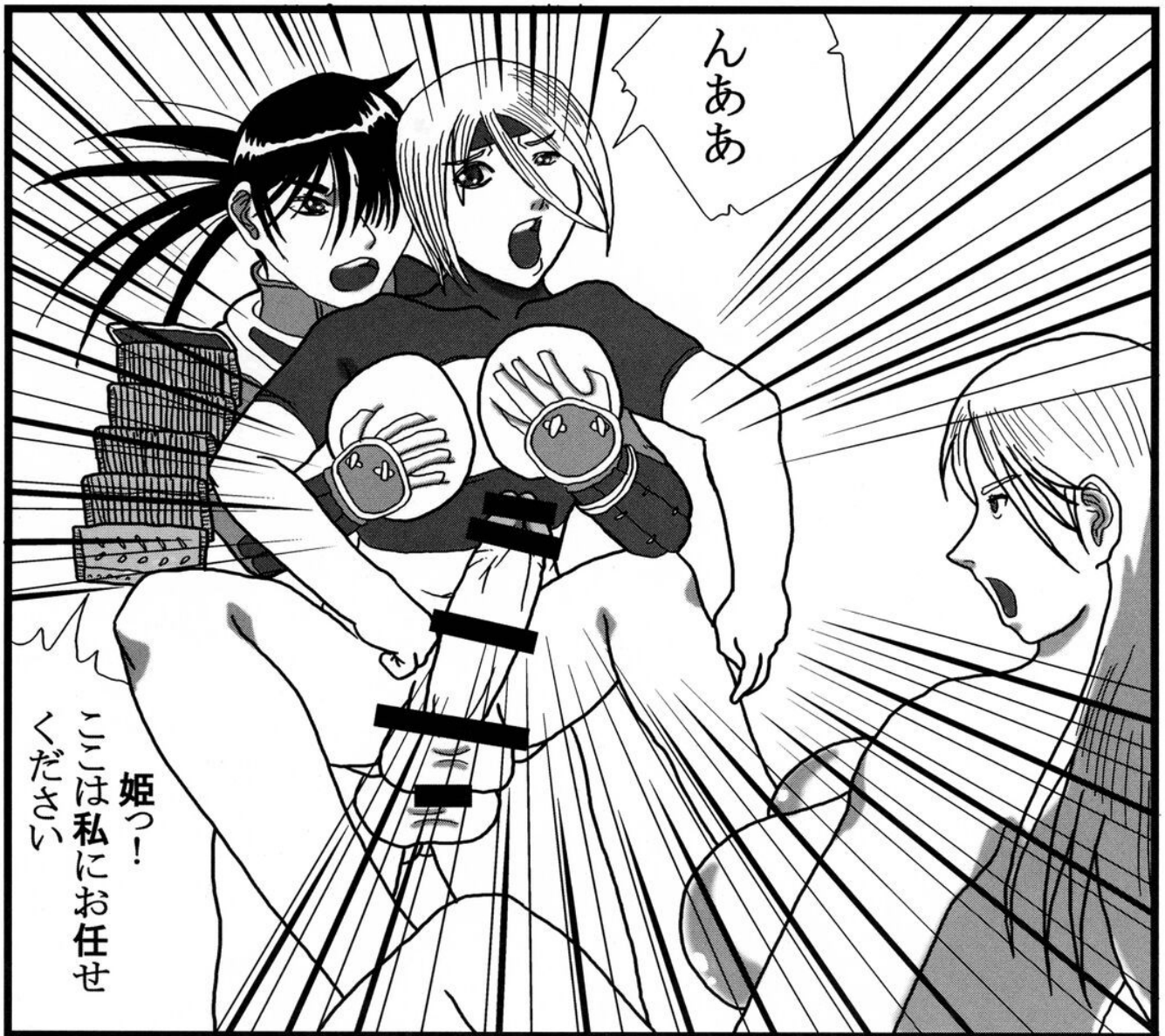
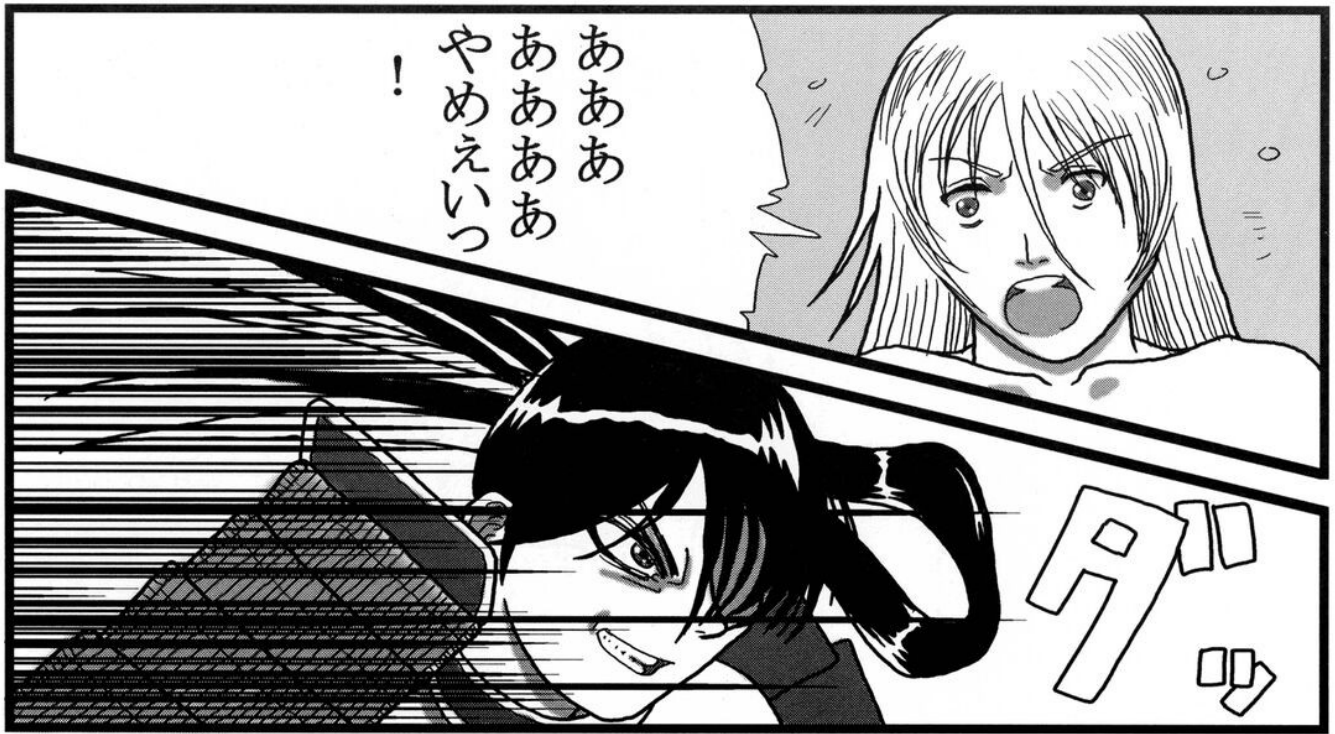


ああっ!



わらわは、この  
者に犯されるのか  
姉君達のように  
華々しい戦果も  
あげぬままに

嫌じゃ!  
こんな惨めな  
負け戦など!

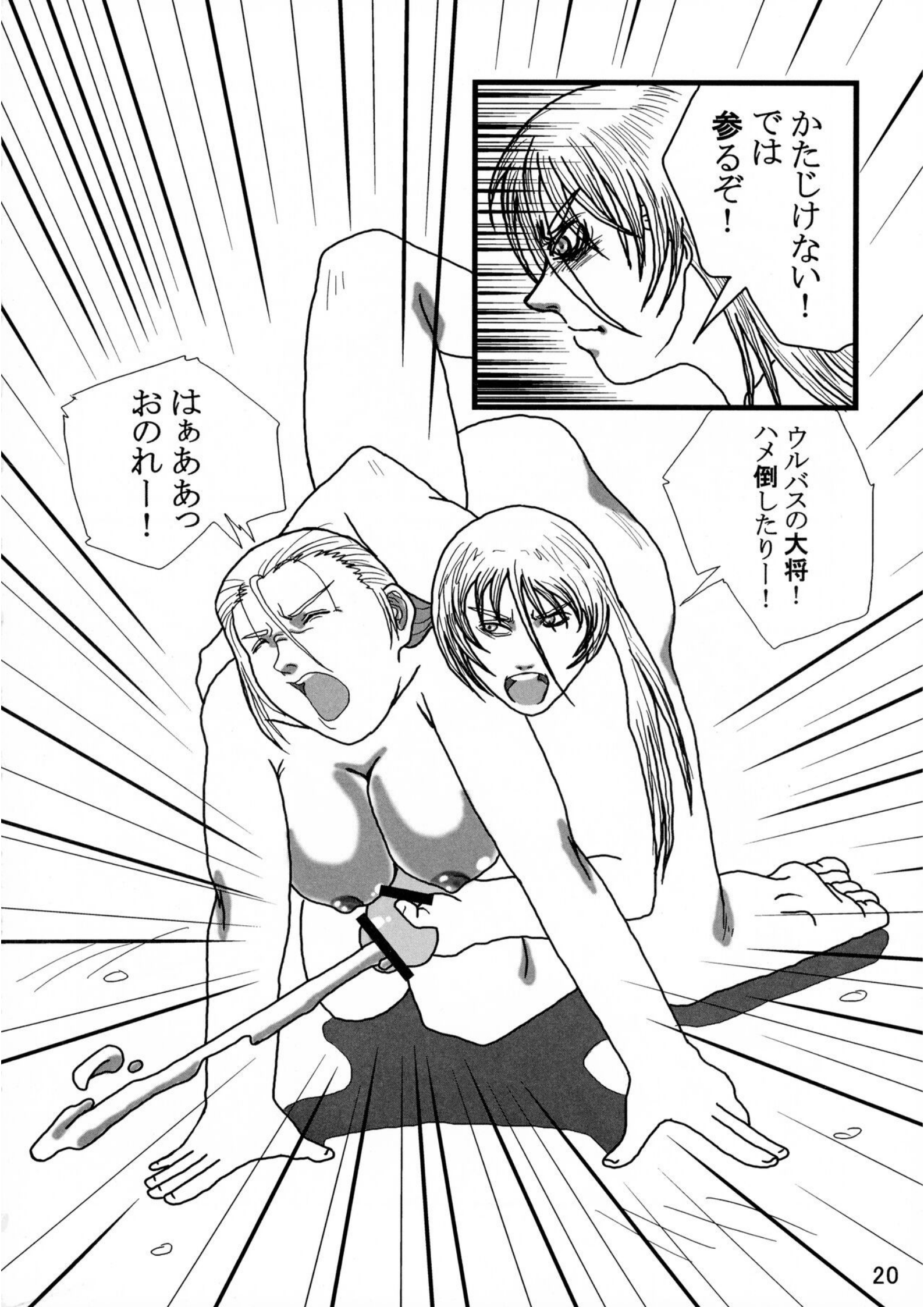


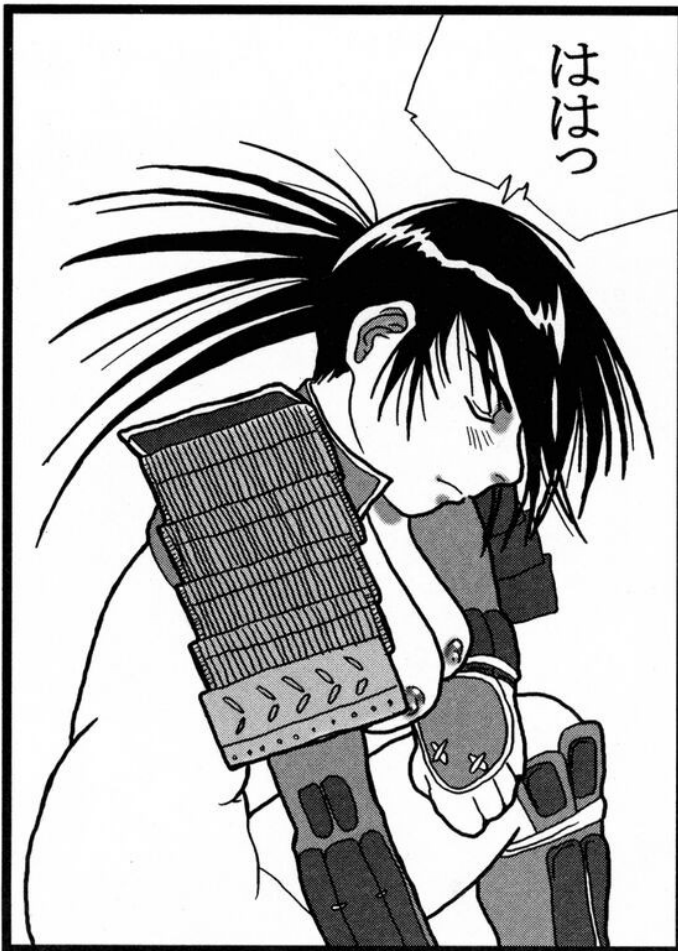


かたじけない！  
では  
参るぞ！

はあああつ  
おのれー！

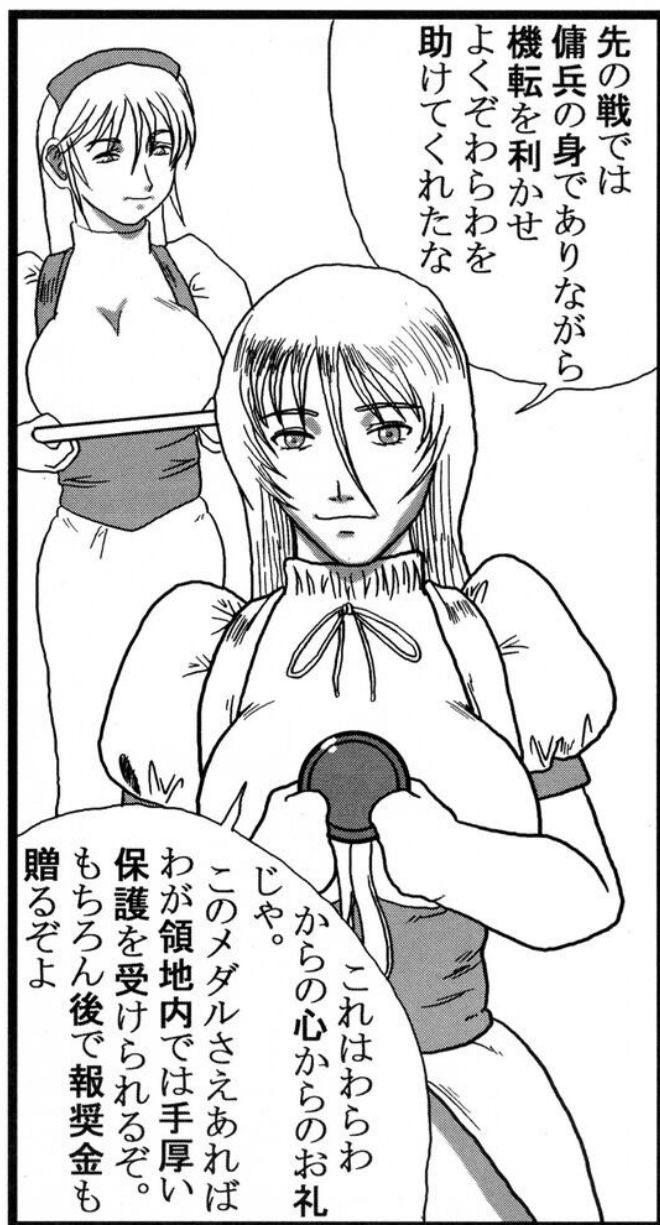
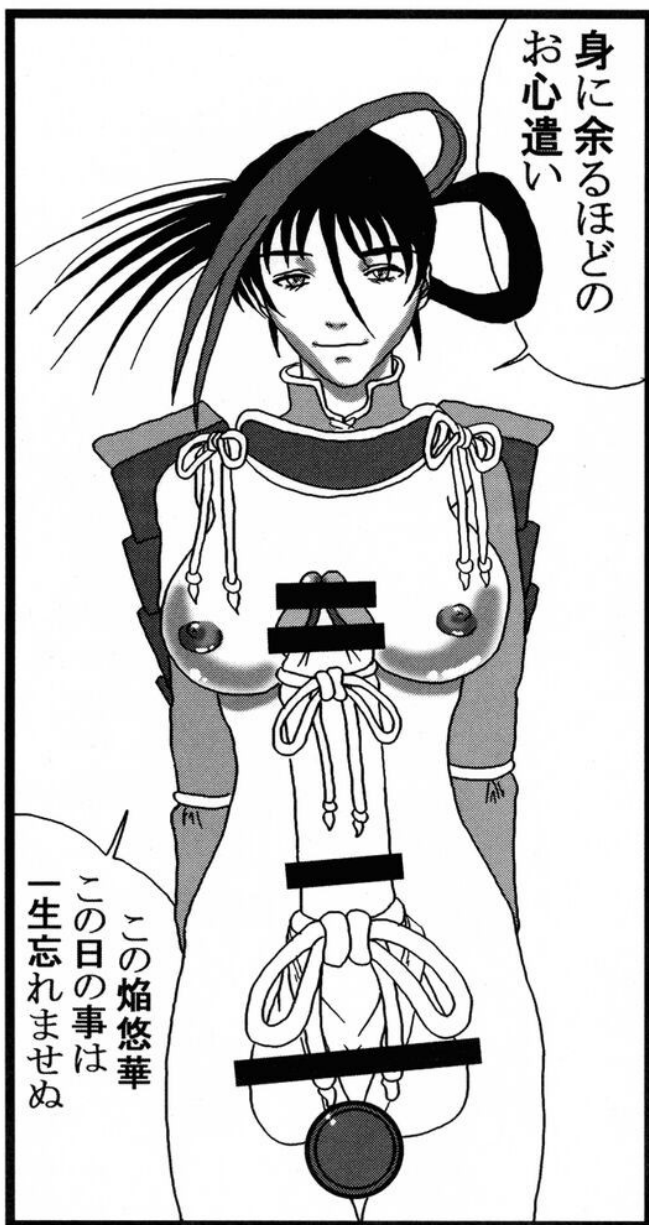
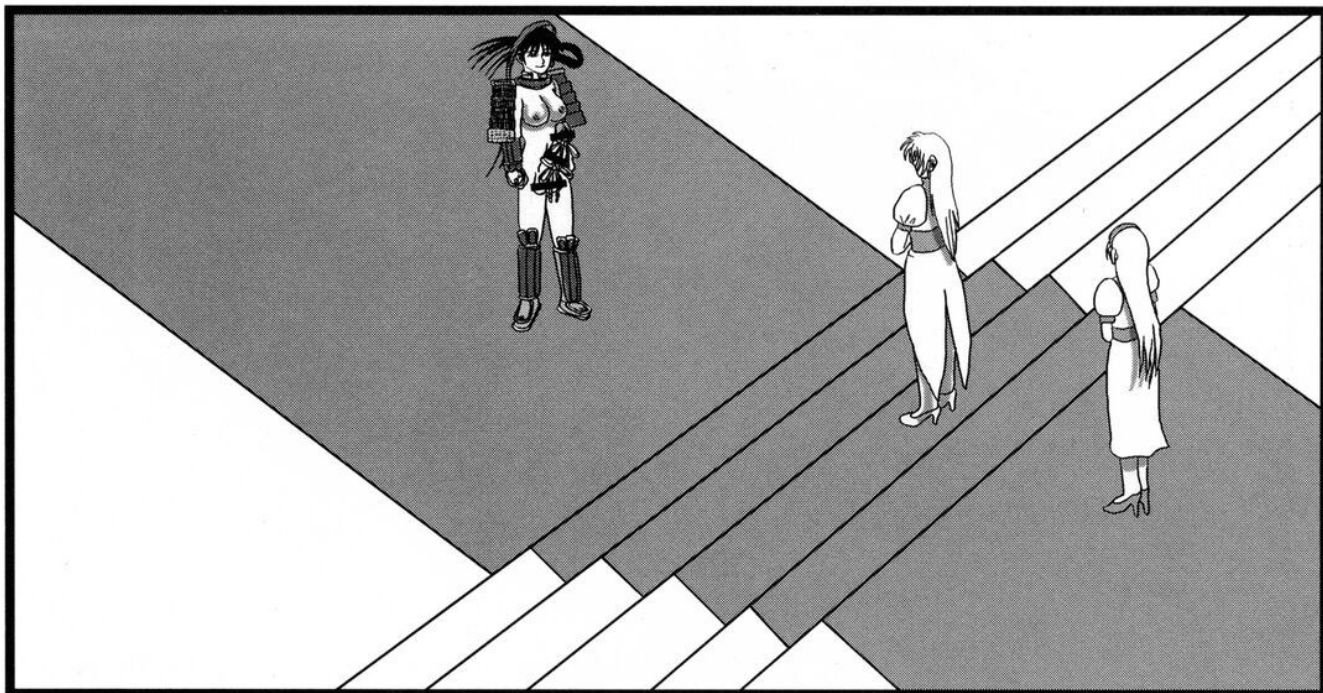
ウルバスの大將！  
ハメ倒したりー！





フアーレン王国大性城





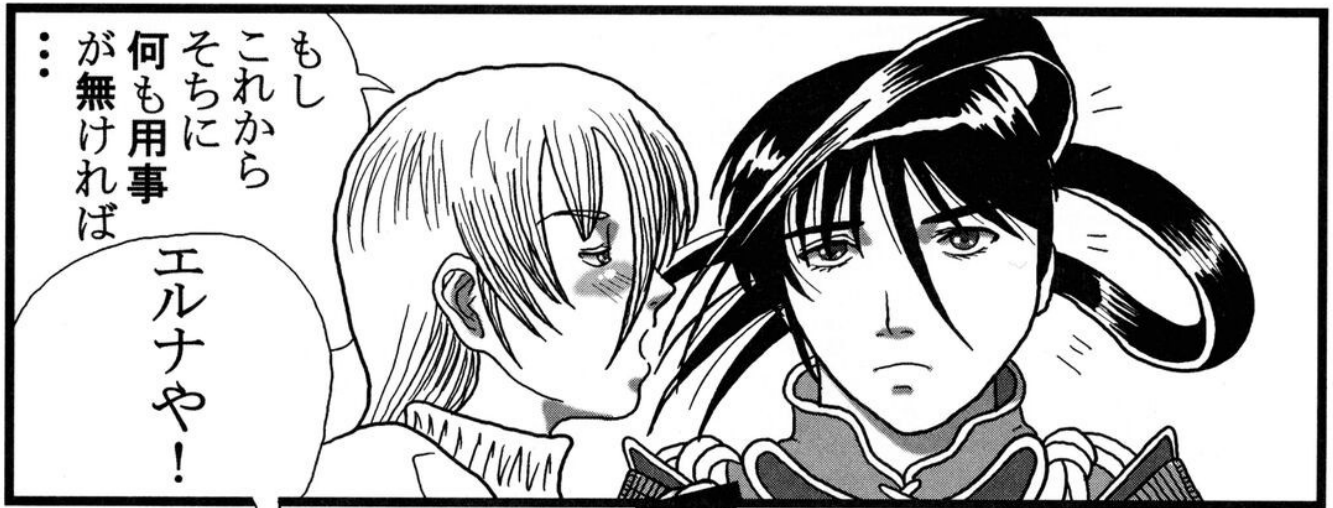
ホムラユウカ…

その美しい黒髪と  
正装の鎧  
東方の出身か  
国はどこじゃ？

なかなか良いモノを  
持っているな  
さぞ華々しい戦果を  
挙げてきている  
のでは？

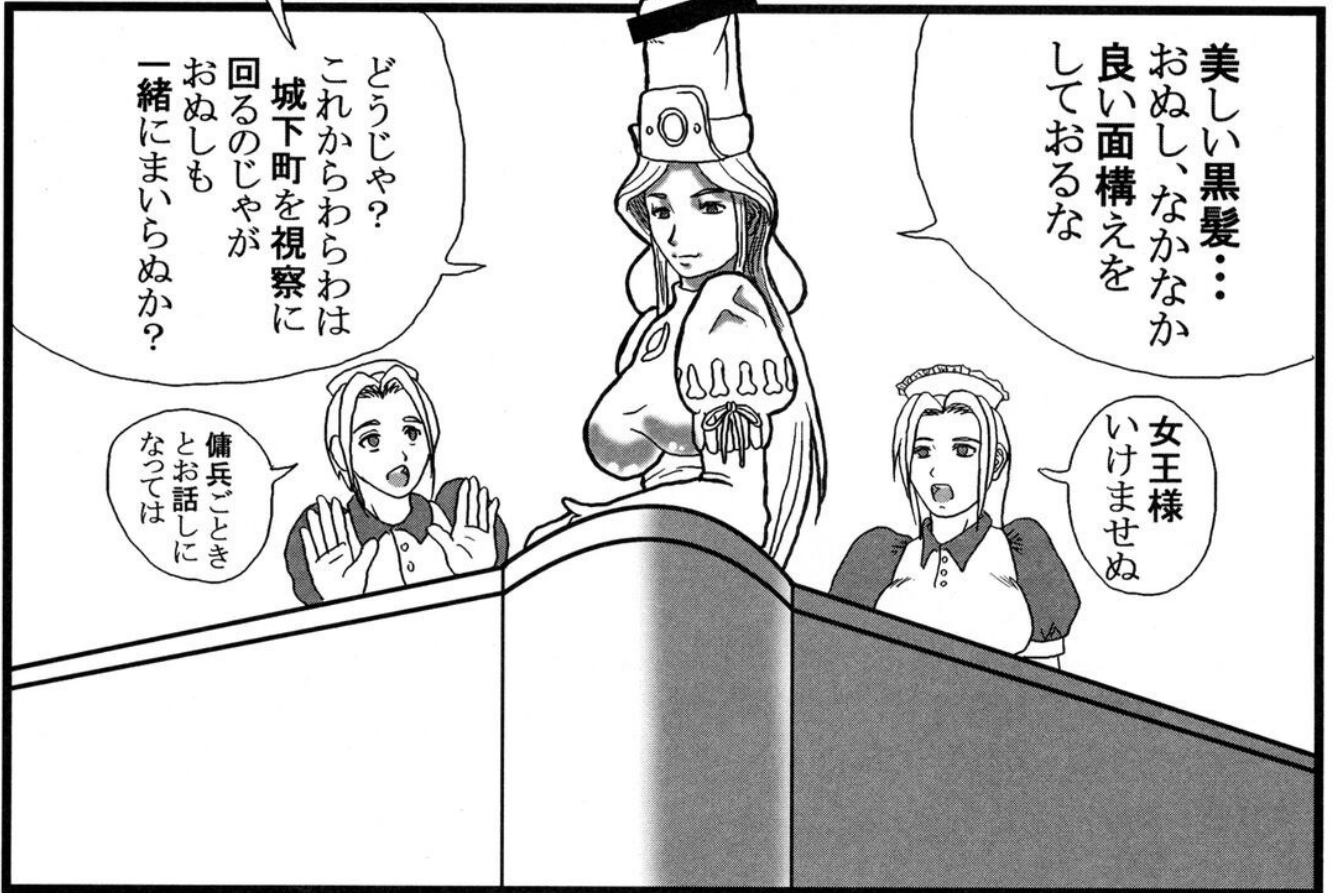
はっ！  
ジャポンの  
東北、ミヤギナ  
でござります

はっ！  
しかしながら食べるに  
困らぬ程度のモノです



もし  
これから  
そちに  
何も用事  
が無ければ  
:

エルナや!

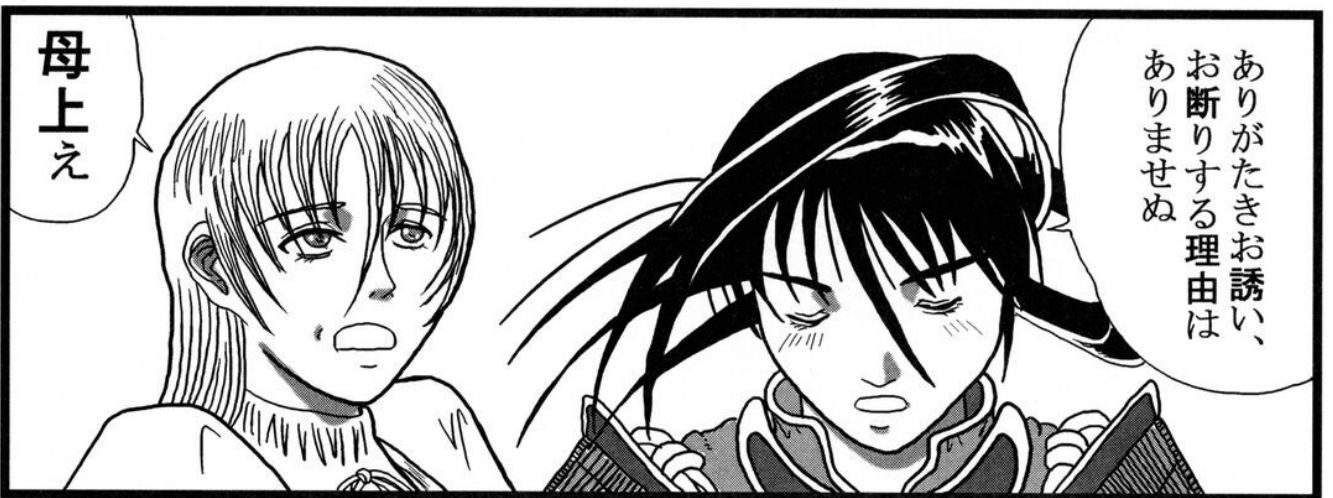


美しい黒髪:  
おぬし、なかなか  
良い面構えを  
しておるな

女王様  
いけませぬ

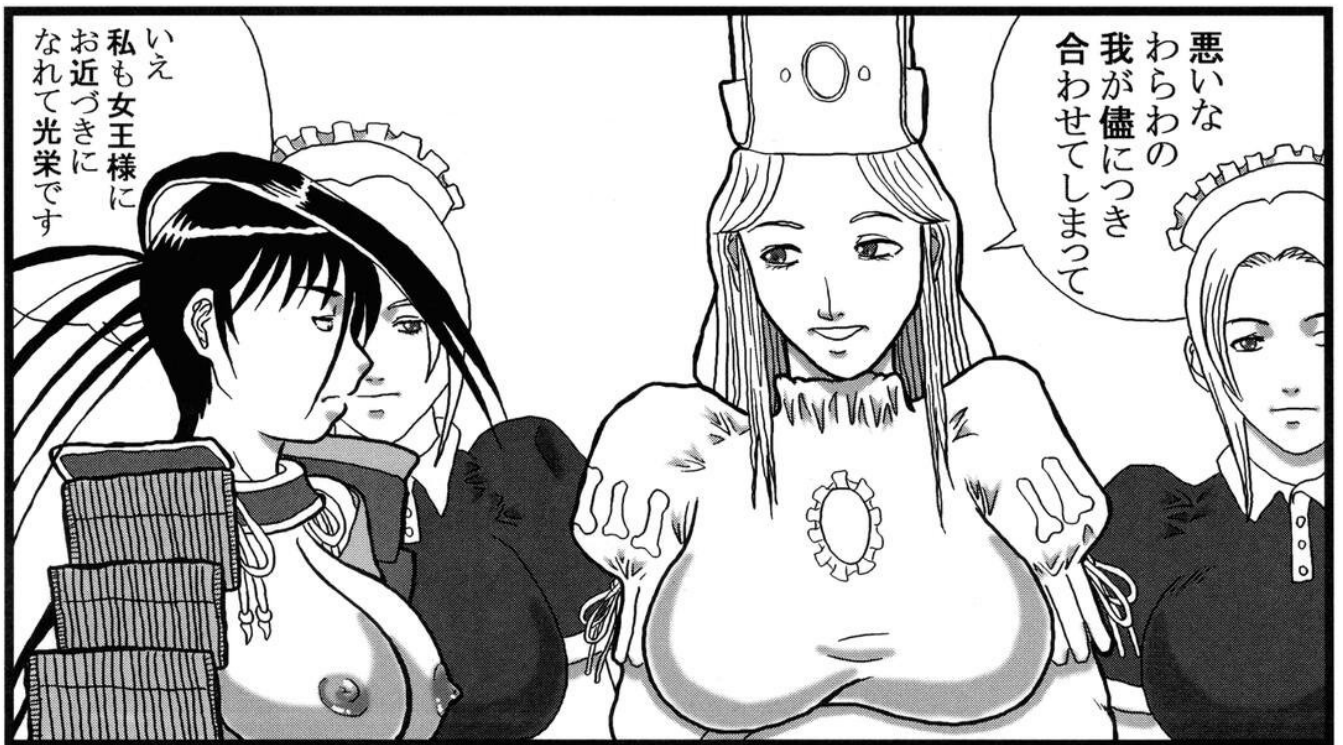
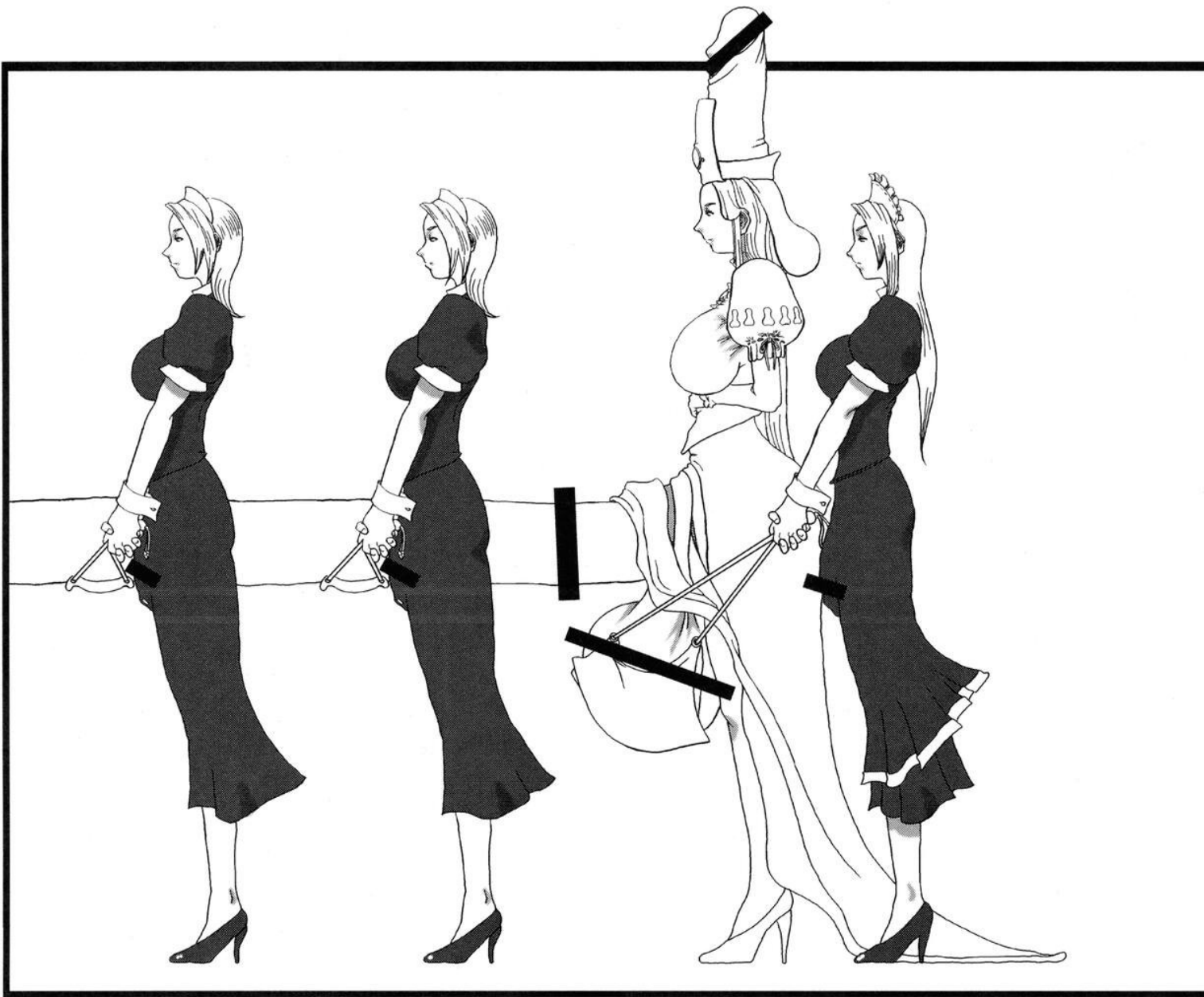
どうじゃ?  
これからわらわは  
城下町を視察に  
回るのじゃが  
おぬしも  
一緒にまいらぬか?

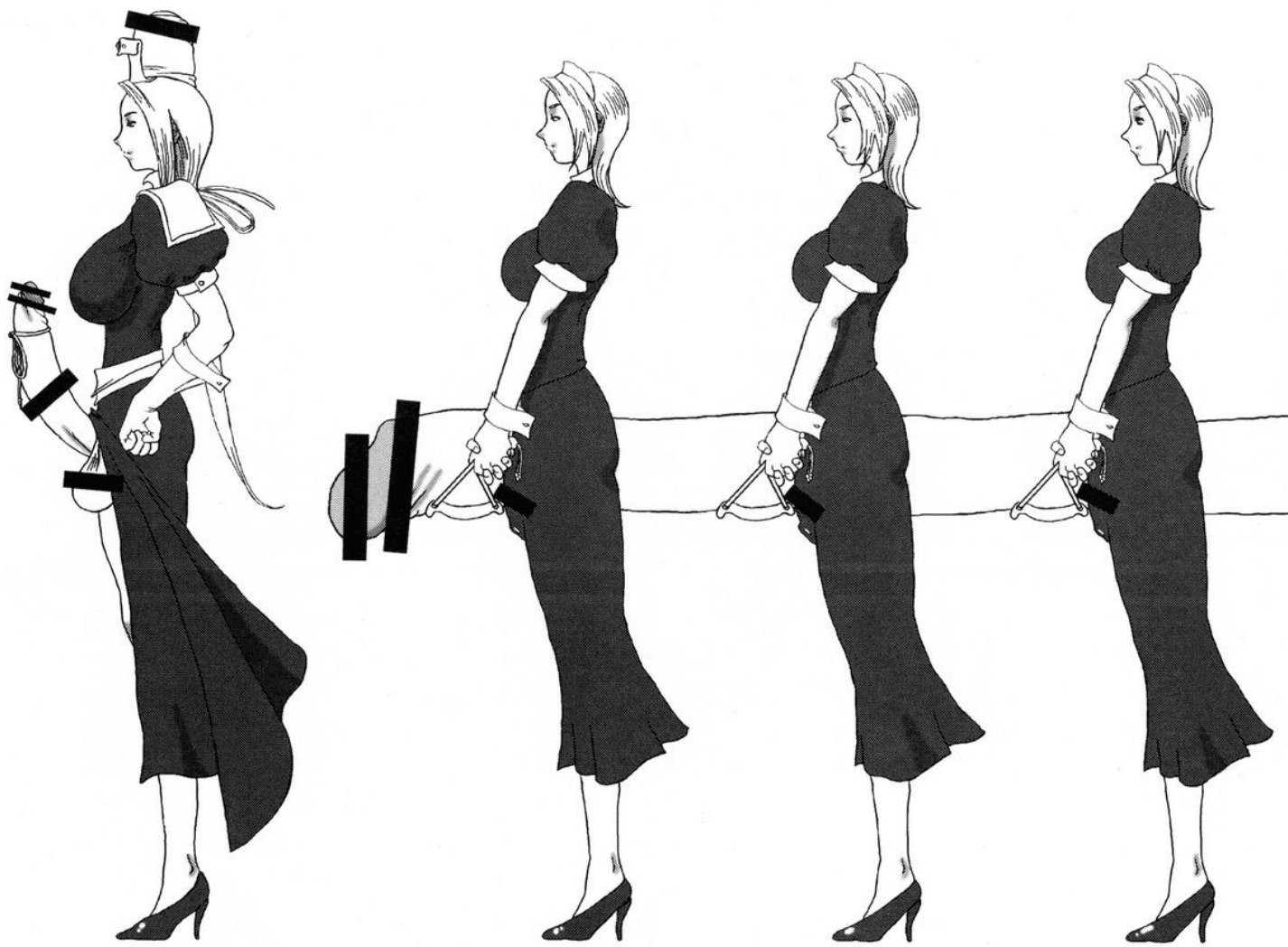
傭兵ごとき  
とお話しに  
なつては



母上え

ありがたきお誘い、  
お断りする理由は  
ありませぬ





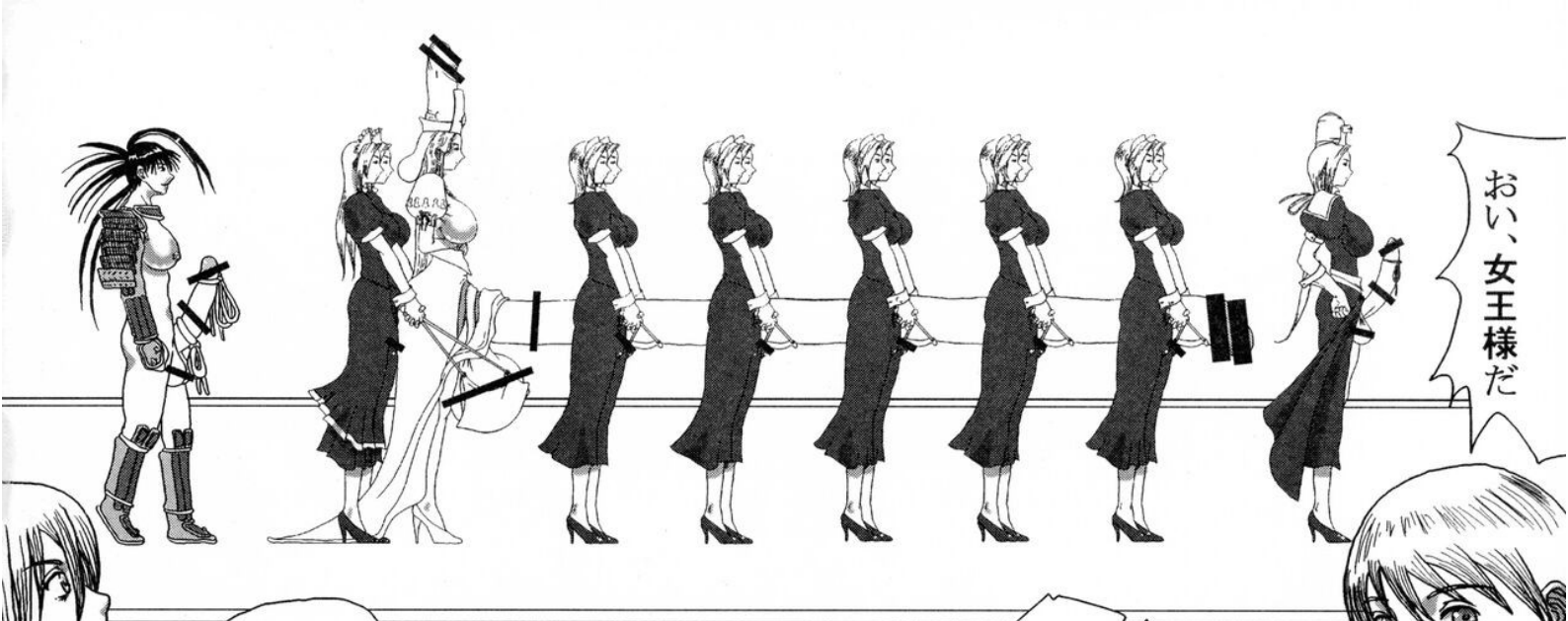
しかし、流石は二国を預かる御方  
お持ちになつているモノが  
違いますな

でかすぎ  
だろ  
おいつ

これ程の  
モノを見たのは  
生まれて初めてです

これでも王族に生まれた身  
不便を感じたことも多々あるが  
誇りを失つた日は一度もありは  
せぬ

なかなか無い  
機会じゃぞ  
よくその両の眼に  
焼き付けておくの  
じゃぞ



おい、女王様だ

いつ見ても  
すげえや

ありがたや  
ありがたや



素敵ねえ

この視察は国民の生活状態を  
調べるだけではなく  
王族の長であるわらわ女王  
の健在であることを  
このモノと共に見せつけることで  
国民に生きる活力を与える  
のも目的としているのじゃ

惚れ惚れ  
するぜ

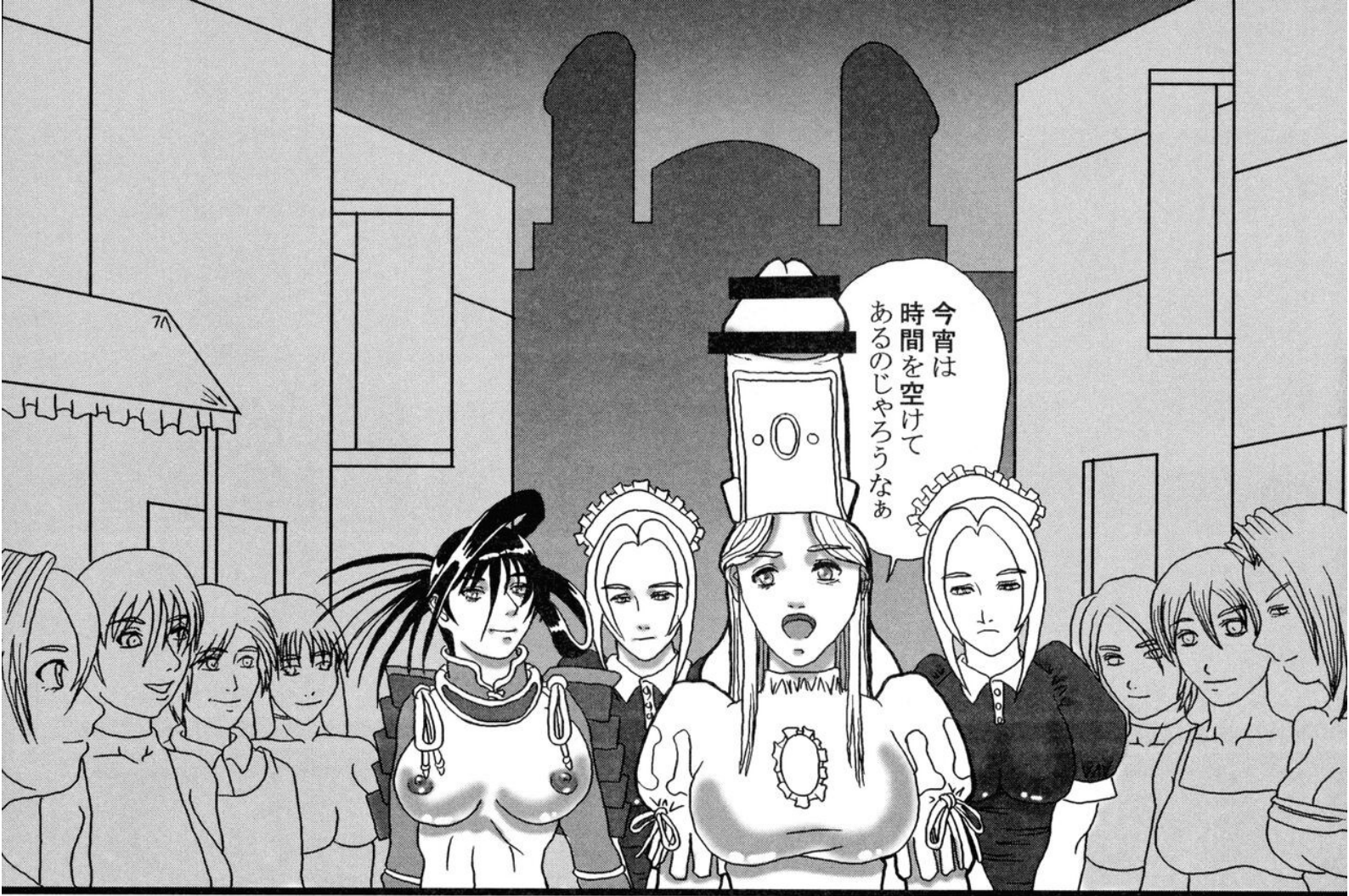
まさにとおりで  
ございます。  
国民の女王様を見る目が  
輝いております

触つて  
みたあい



国民は国の宝  
その宝、国を守るのが王族の  
役目じゃ

正規の軍隊だけではなく  
傭兵部隊を使つても  
守らなくてはならない



今宵は  
時間を空けて  
あるのじゃろうなあ

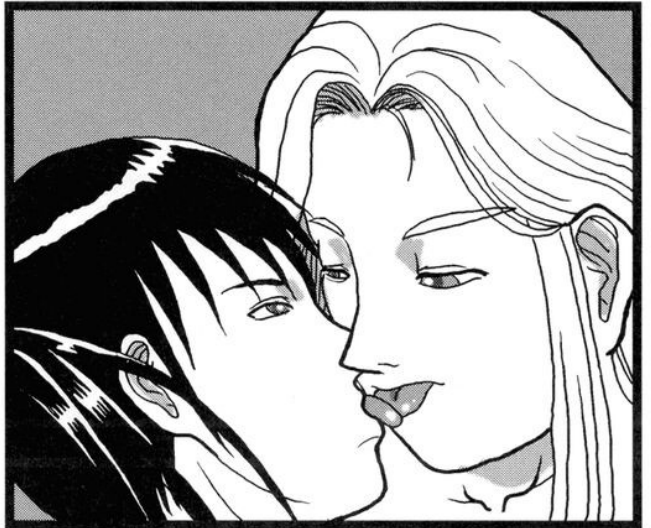
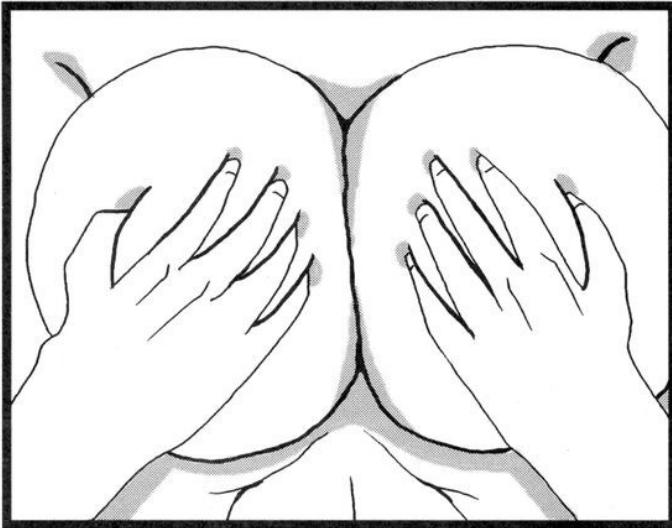
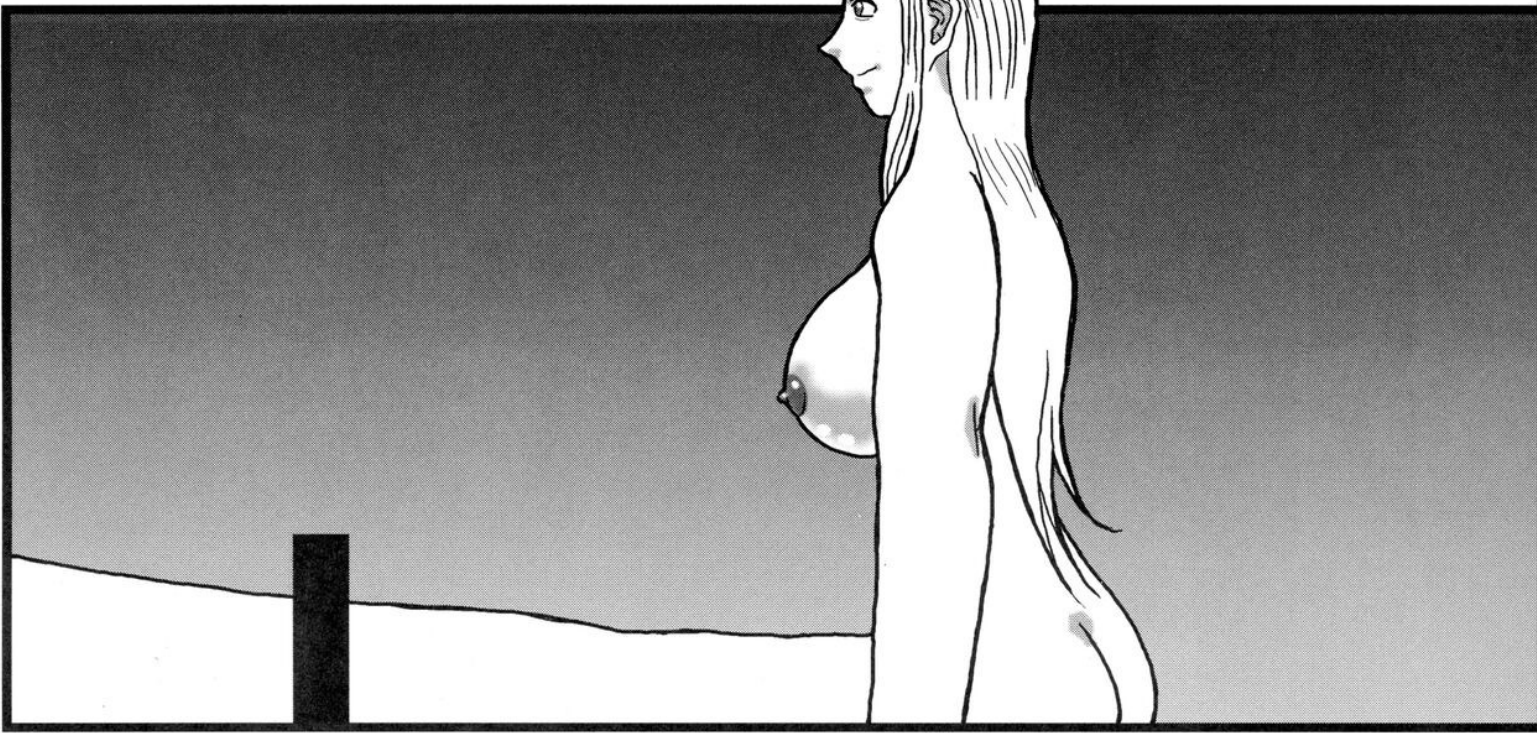


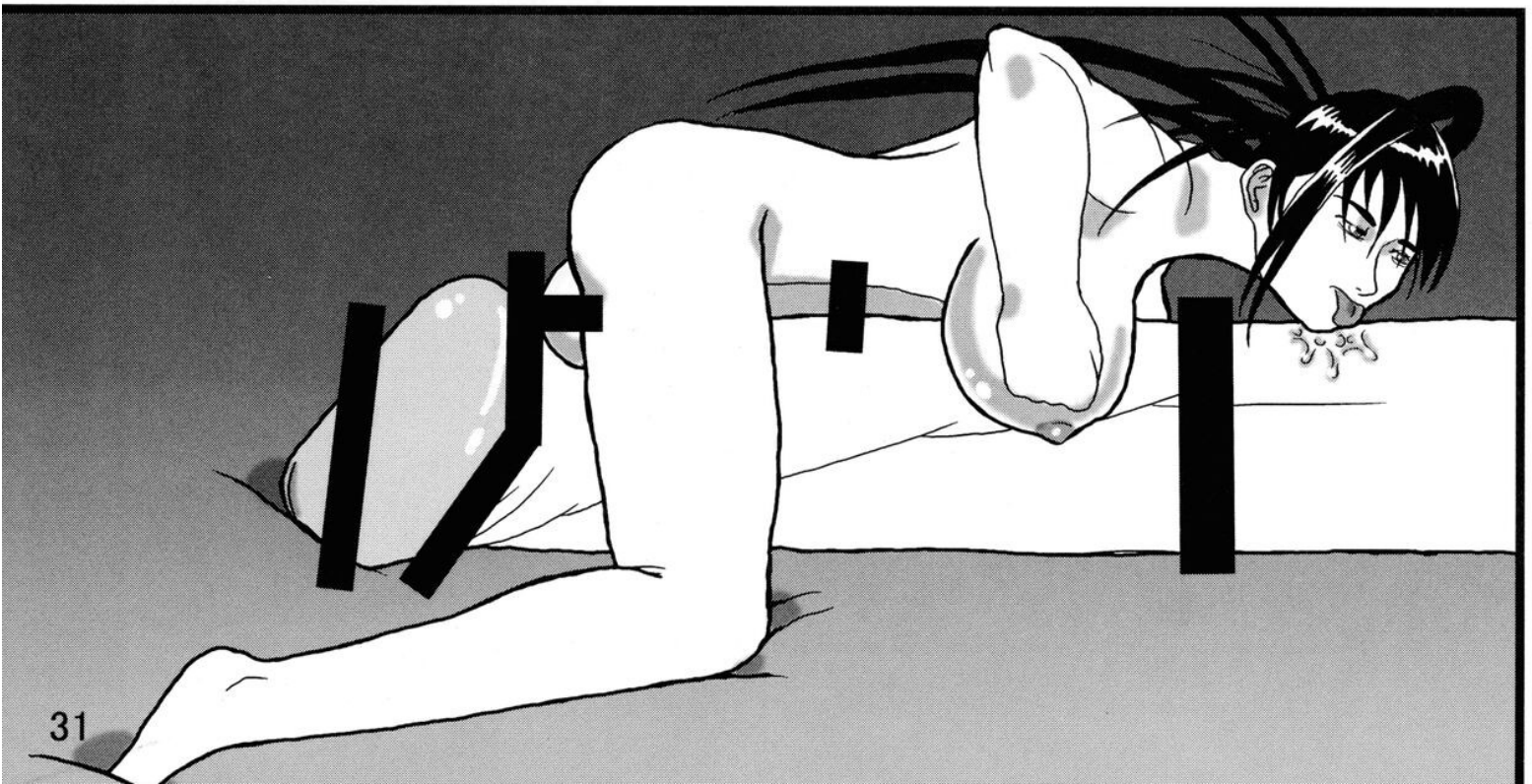
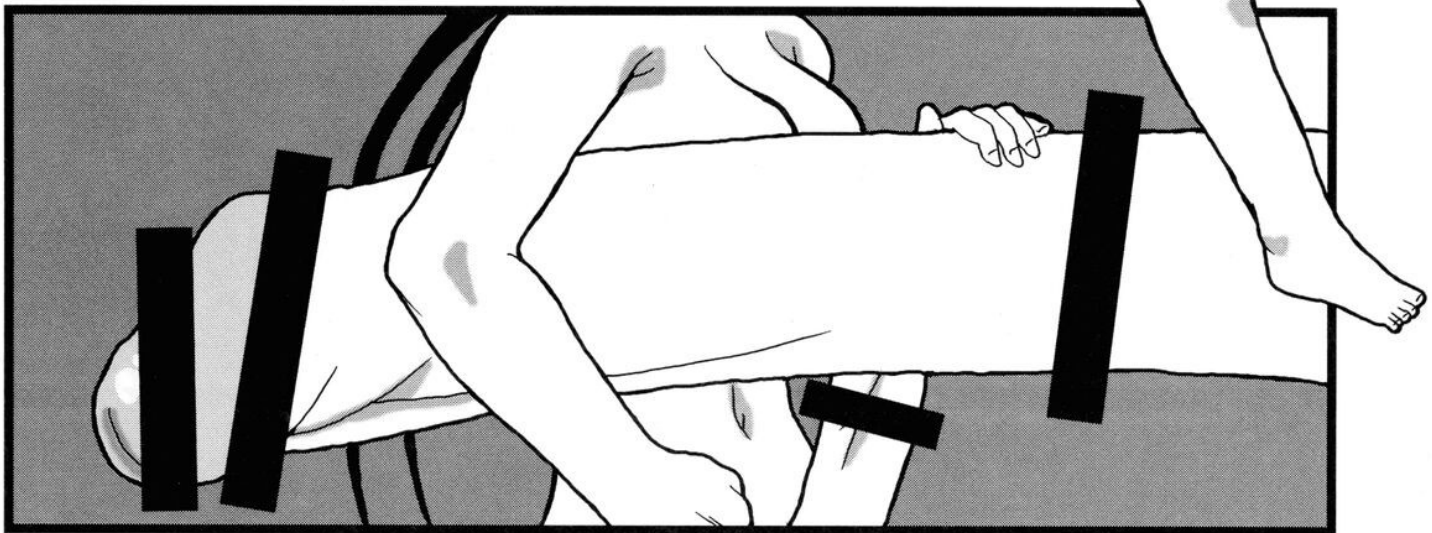
えっ？  
あ、はい  
まあ



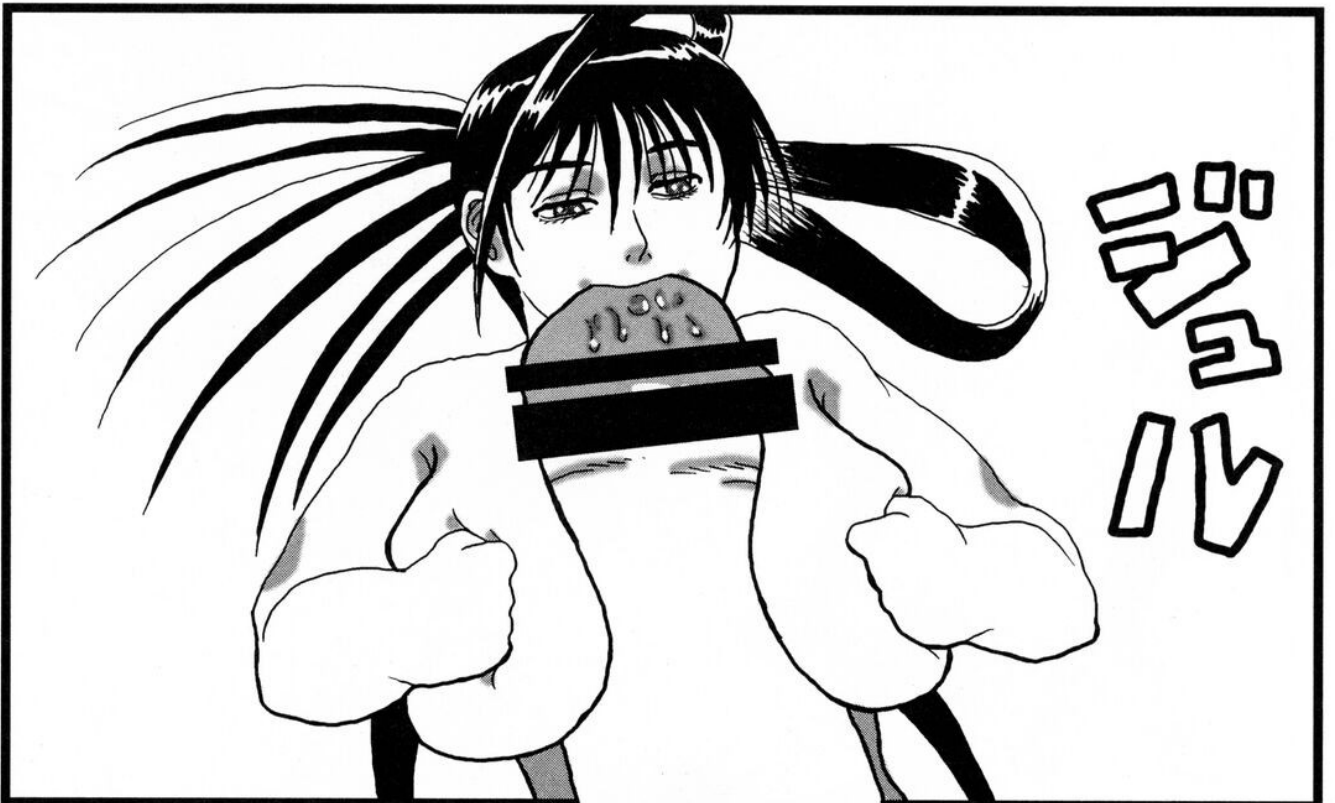
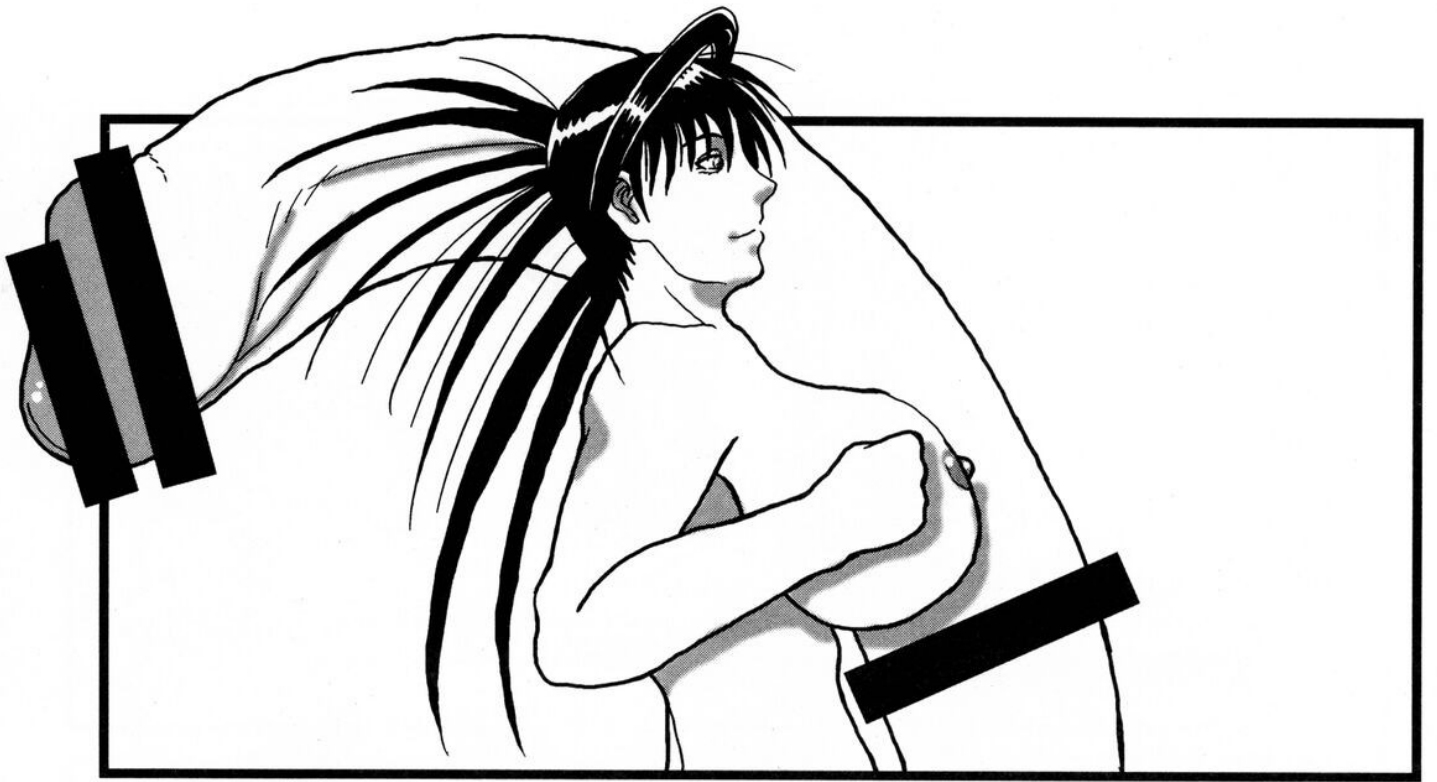
良い返事じゃ  
今夜はおぬしにとつて  
忘れられぬ  
夜になるぞ

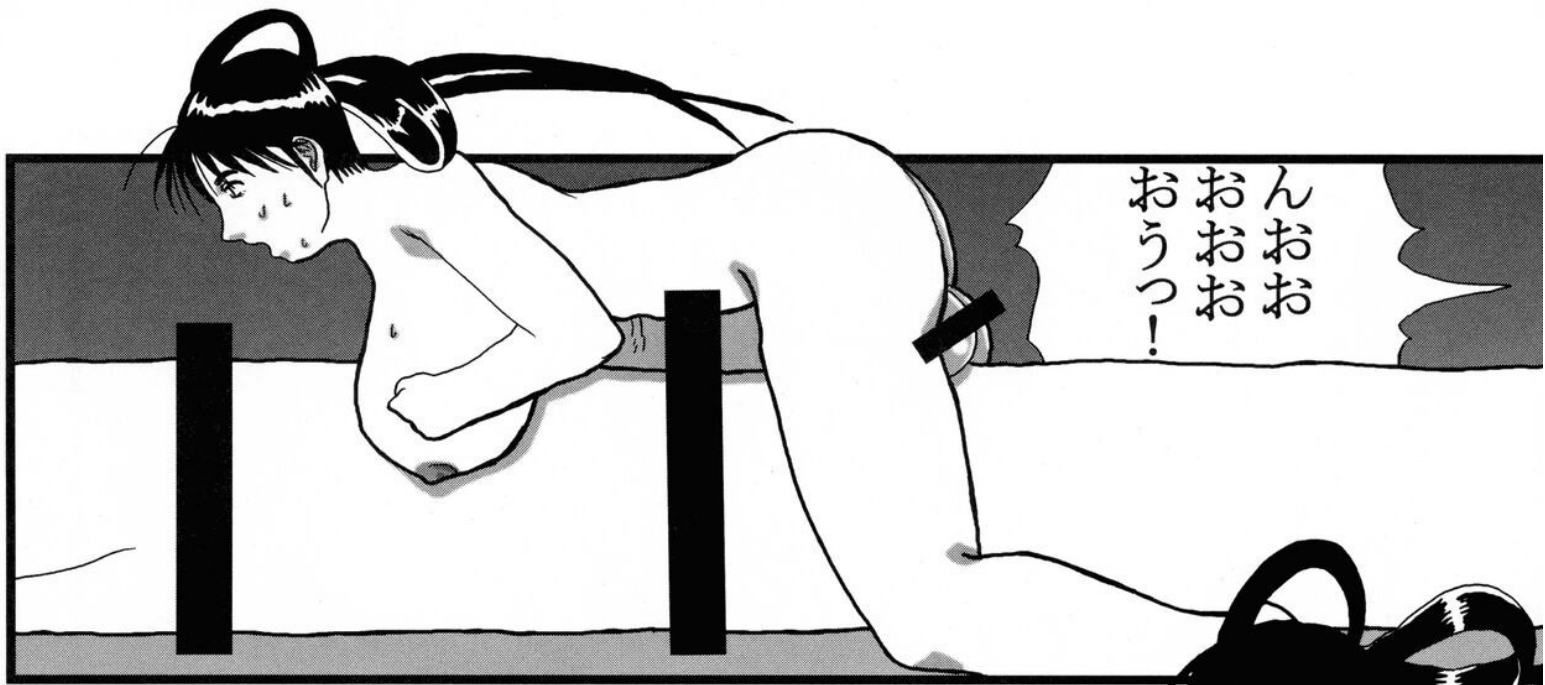
女王様の  
お通りである  
道を開けえい！











んおお  
おおお  
おうっ！



すげえ  
出過ぎ  
だあ

ドドド



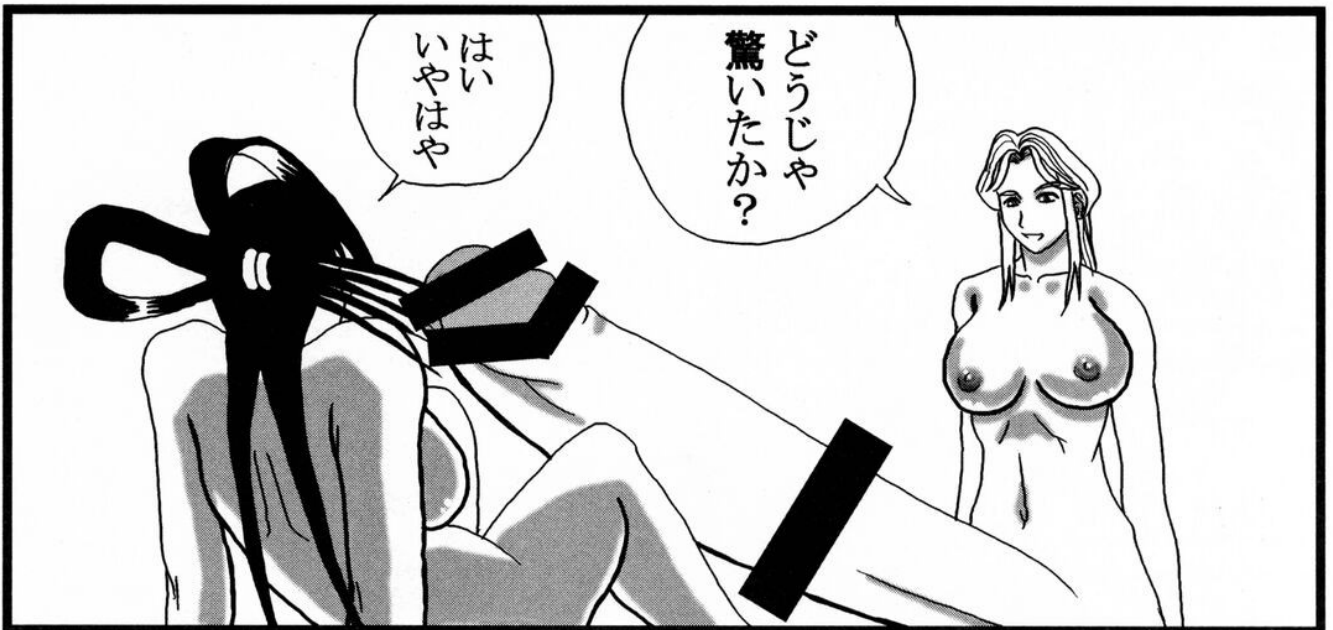
んおあっ！





うはあ

おっ



どうじゃ  
驚いたか？

はい  
いやはや

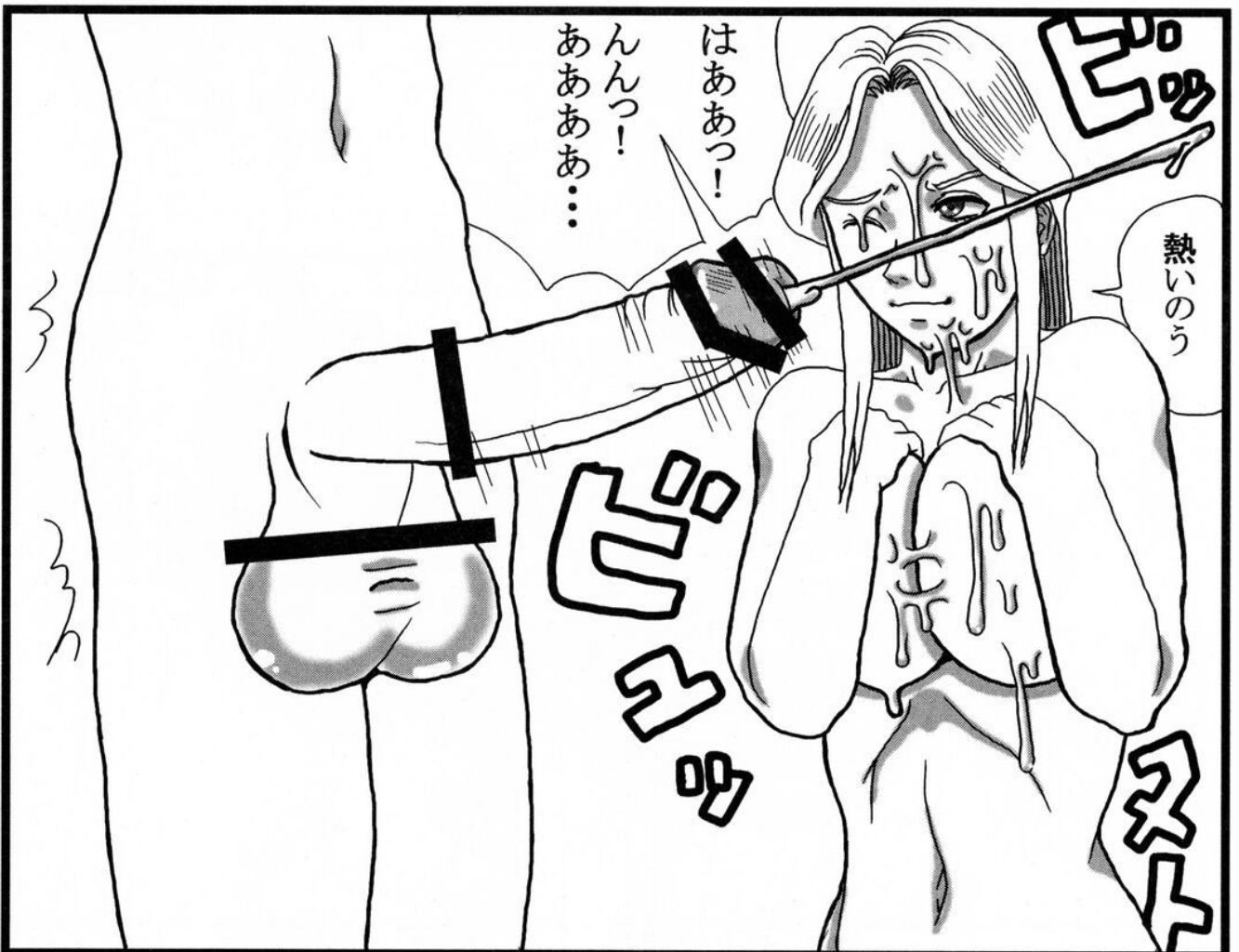


どれどれ

今度は  
おぬしのを  
見せて  
もらうぞ



流石に大きいだけ  
あつて出る量も  
違いますなあ



傭兵稼業をやめるのか？

そうか……

国へ……  
ジャポンへ  
帰るか……

いえ、傭兵は  
天職です  
ちよつと休む  
だけです

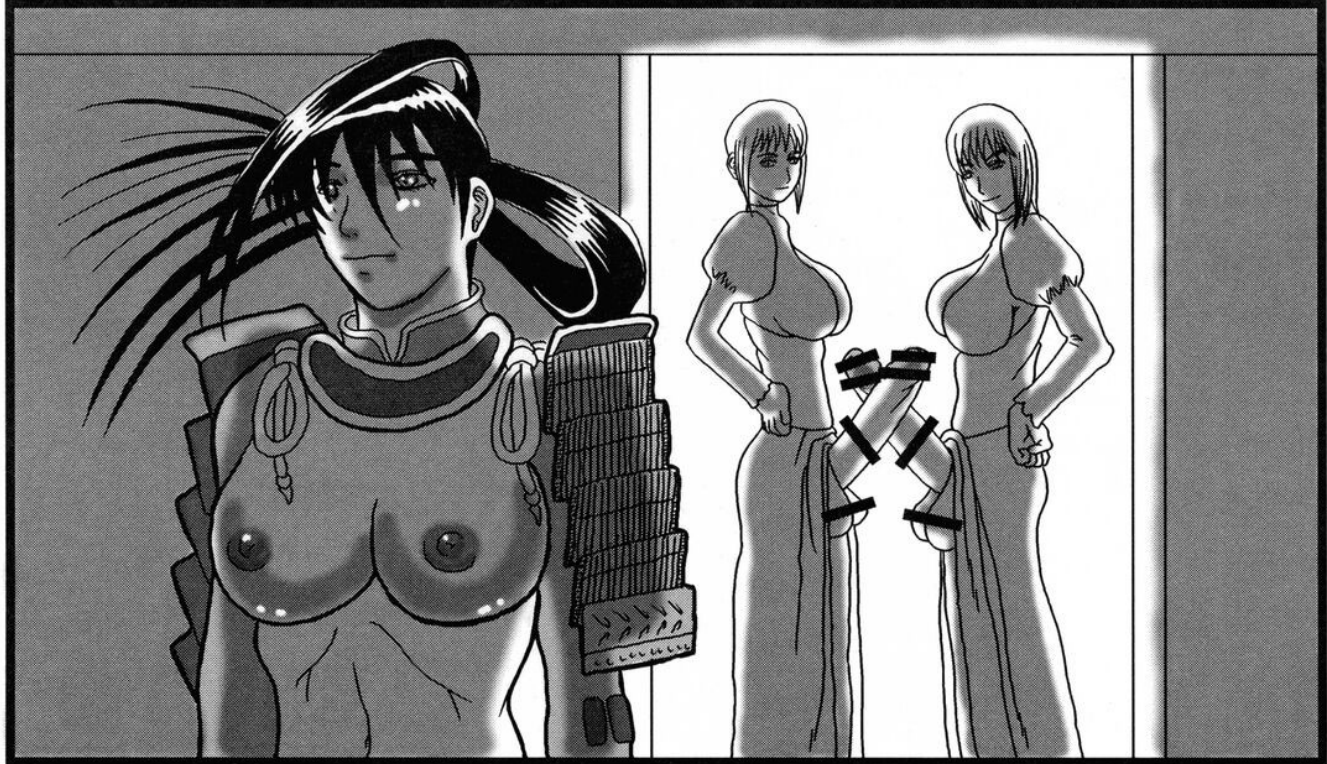
はい、  
しばらく  
留守にし過ぎ  
ました

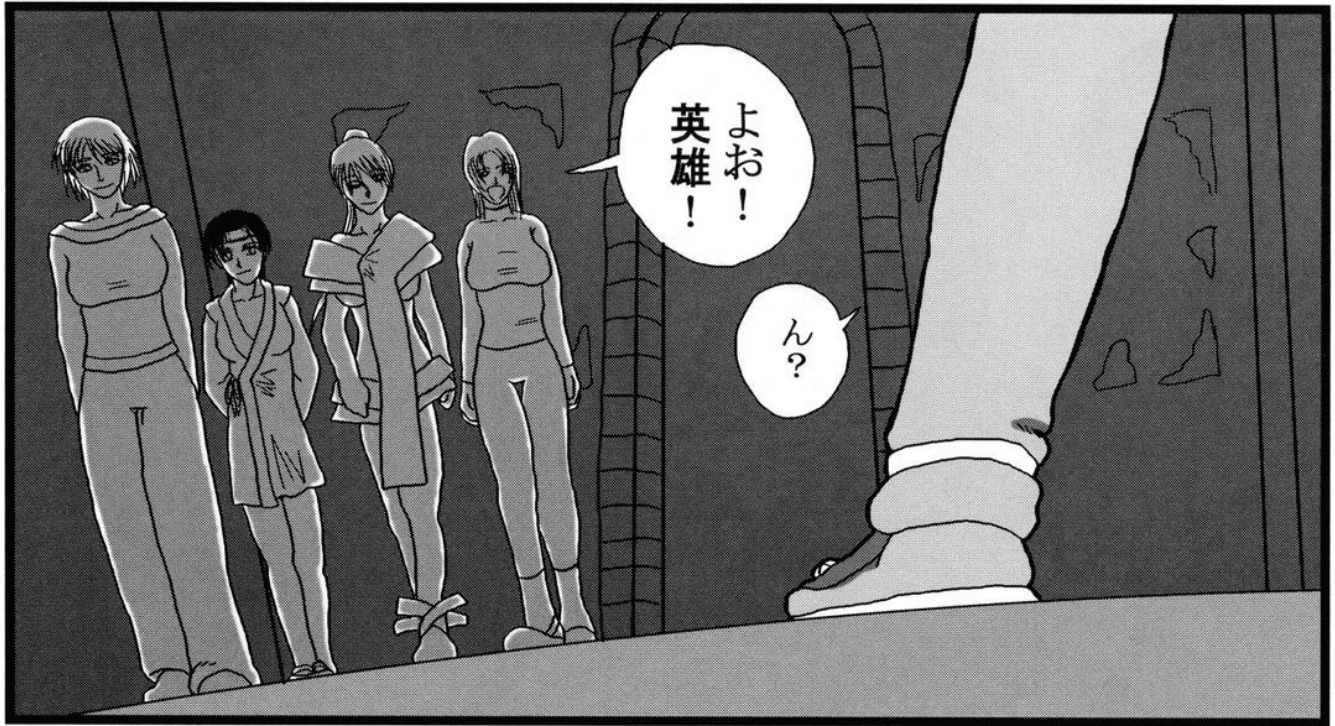


では  
失礼します



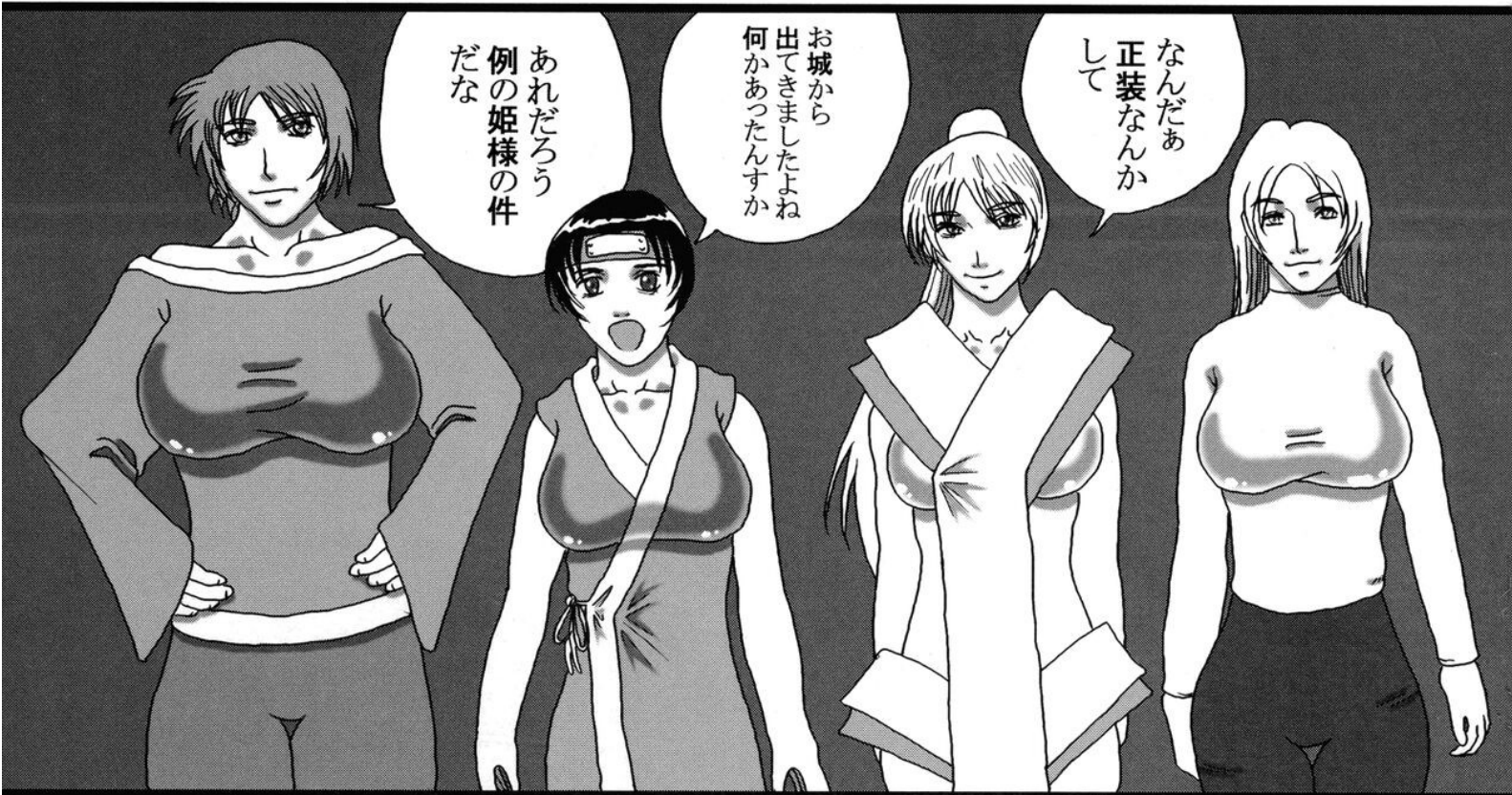
その折には  
是非とも  
わらわの軍勢に  
加わってもらいたい  
ものじゃ





よお！  
英雄！

ん？



なんだあ  
正装なんか  
して

お城から  
出てきましたよね  
何かあったんすか

あれだろう  
例の姫様の件  
だな



皆の察しのとおりさ  
御姫様の一件で  
お城にご招待  
つてとこだよ

今日は  
機嫌が良いんだ  
あたしの奢りで  
飲みに行かない  
かい？

おっ  
いいねえ  
人の金で  
飲むのが  
一番うまい  
つてね

なるほどねえ

闘いながら姫さんの後を追いかけていたと

そうしたら

思ったとおり、少数の部下だけ引き連れてウルバスの本陣までいつちまったって訳さあ

流石っす  
焰のあねさん!

二人の姉姫様とは違って一度も戦果をあげていないどころか戦場に行つたことのない末娘のエルナ姫が多少の無茶をしてでも名をげに行くに違いないと

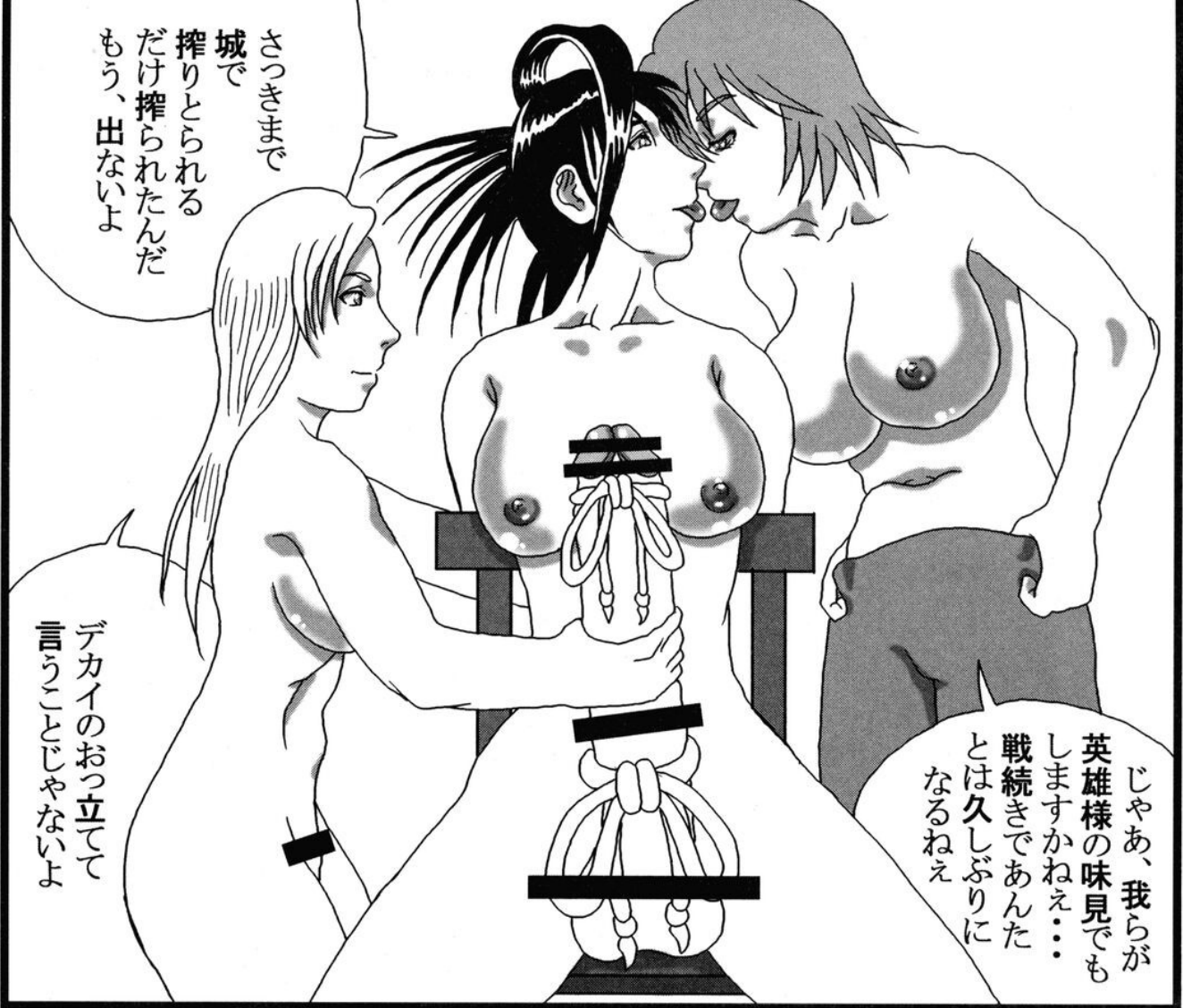
あたしも何かやるとは思つてたけど、まだこちら側がちよつと有利になつたぐらいで行つちまうとは考えてなかつたさ

お待たせ  
いたしま  
した

あつ、それこつちで  
お願いします

博打だなあ  
上手くいったから  
良いけど、下手打つと  
お前がやられ  
まくつてたぞ

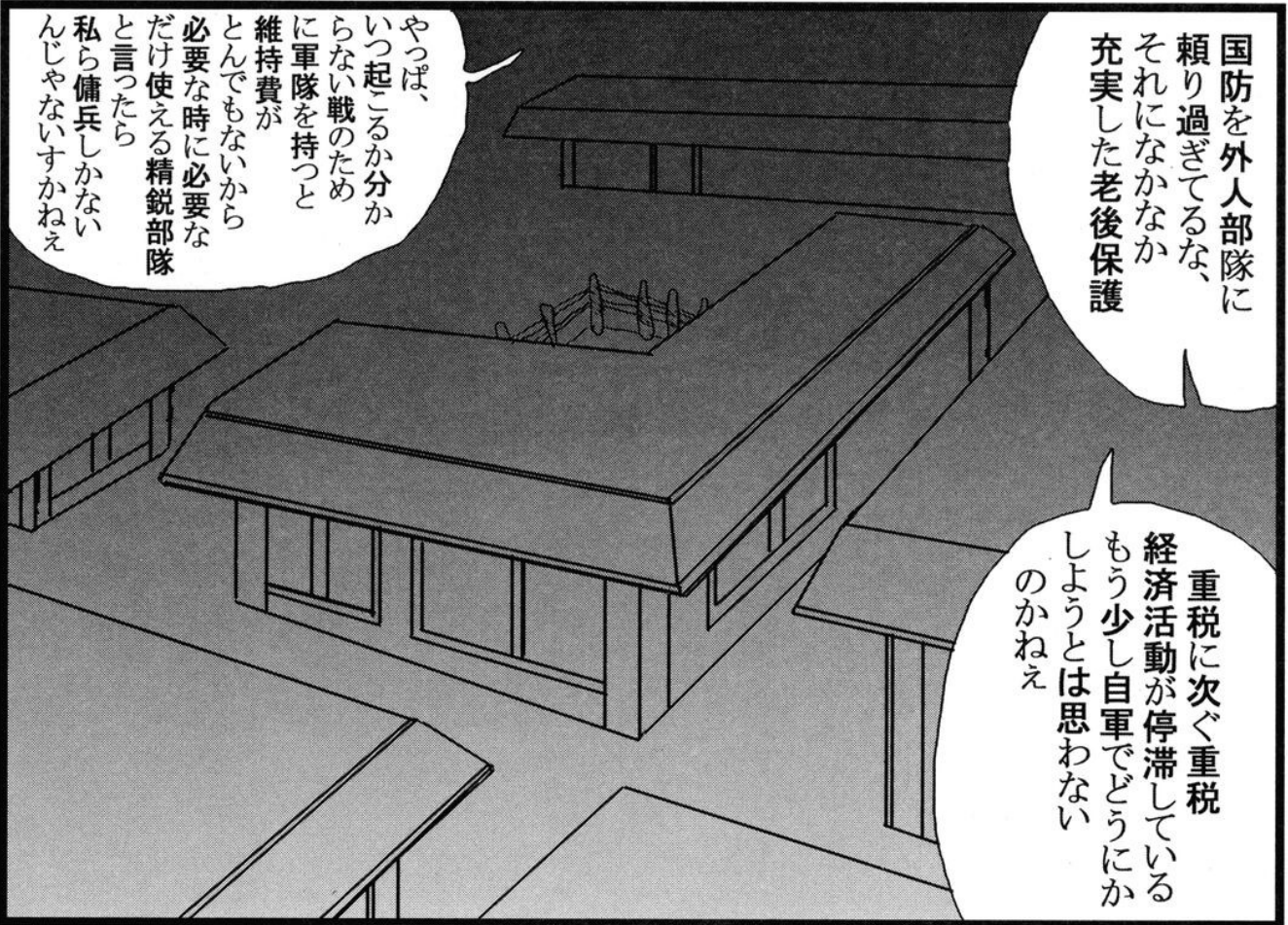
ジャム芋の  
揚げ物と  
三色煮付け  
大盛りですー



さつきまで  
城で  
搾りとられる  
だけ搾られたんだ  
もう、出ないよ

じゃあ、我らが  
英雄様の味見でも  
しますかねえ...  
戦続きであんた  
とは久しぶりに  
なるねえ

デカイのおっ立てて  
言うことじゃないよ



国防を外人部隊に  
頼り過ぎてるな、  
それになかなか  
充実した老後保護

重税に次ぐ重税  
経済活動が停滞している  
もう少し自軍でどうにか  
しようとは思わない  
のかねえ

やっぱ、  
いつ起るか分か  
らない戦のため  
に軍隊を持つと  
維持費が  
とんでもないから  
必要な時に必要な  
だけ使える精鋭部隊  
と言ったら  
私ら傭兵しかない  
んじゃないすかねえ



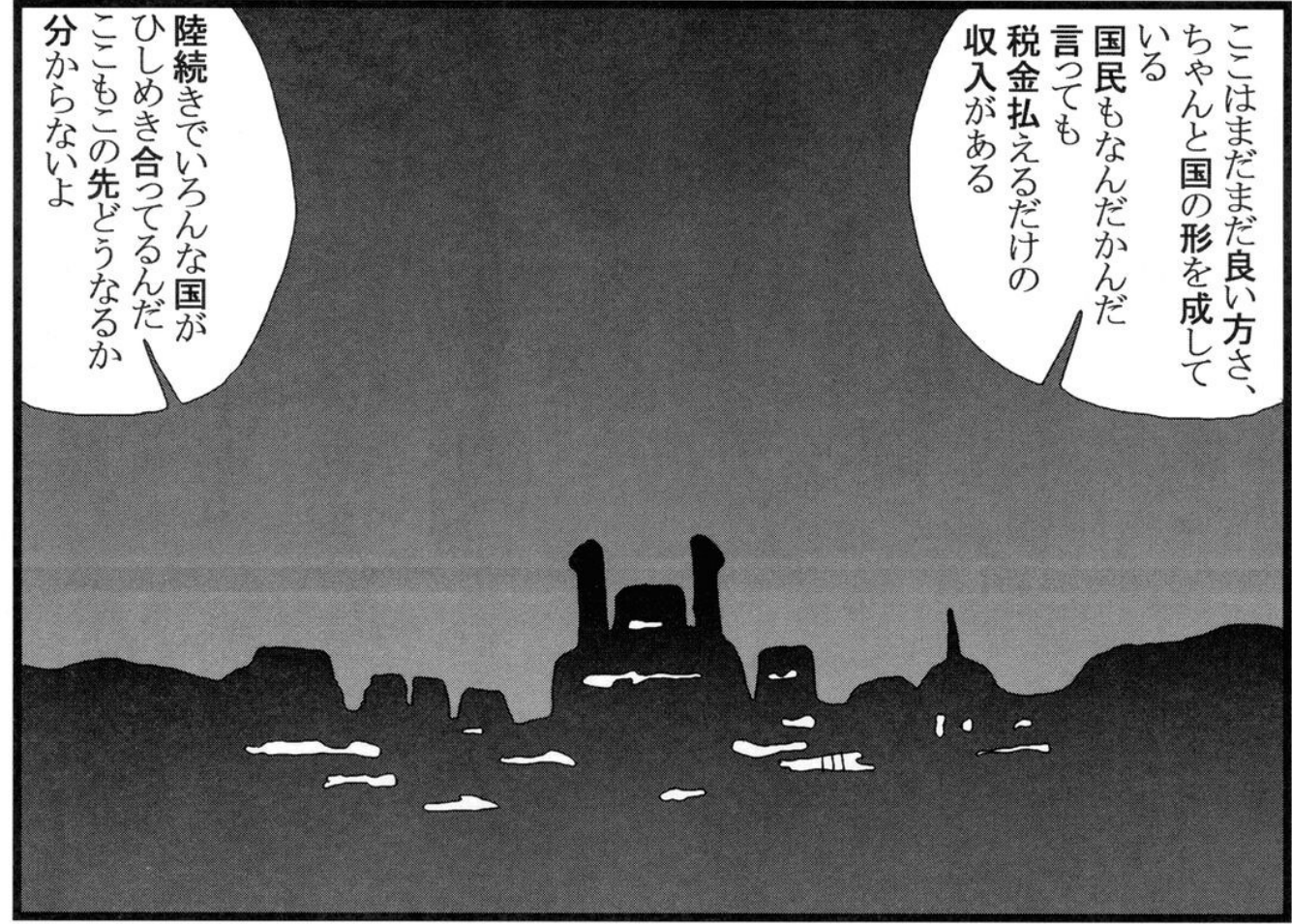
パン

パン

やっぱり  
良いモノ持つて  
るやつは  
穴も良いねええ

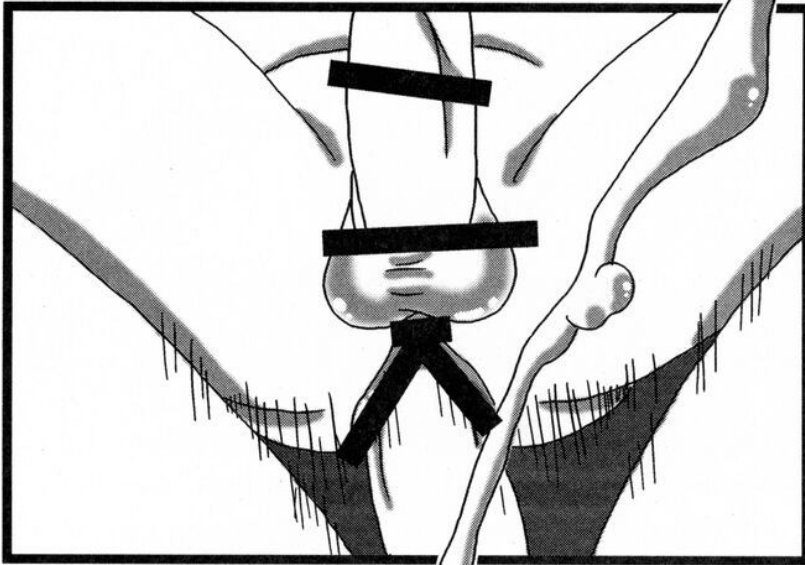
パン  
パン

あつあつあつ  
奥まで届いてるう！

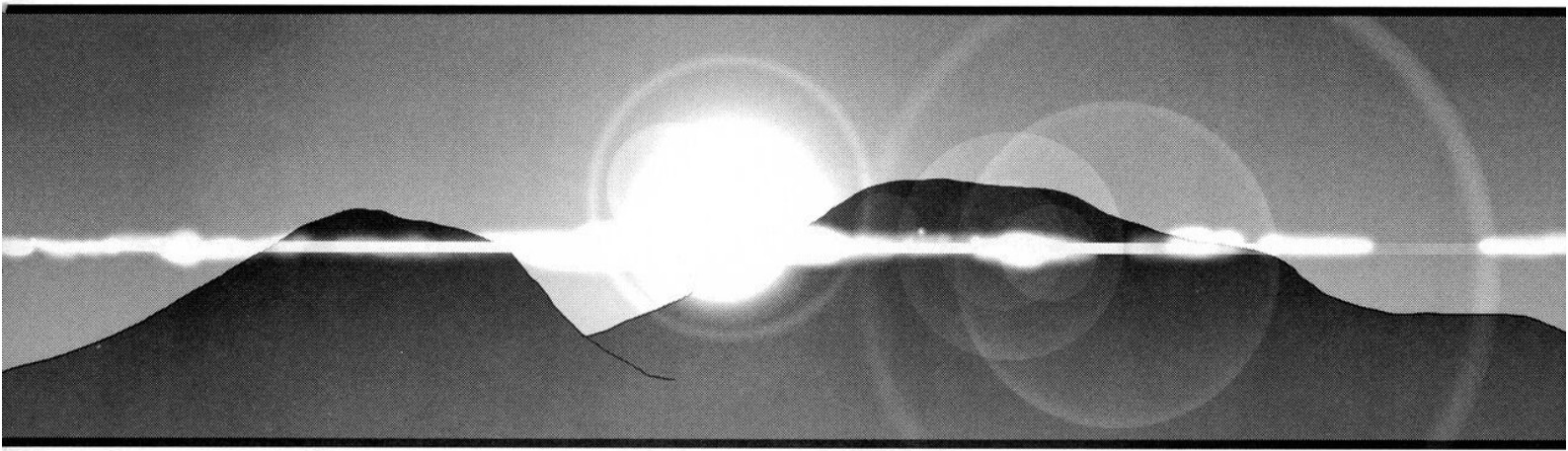


ここはまだまだ良い方さ、  
ちやんと国の形を成して  
いる  
国民もなんだかんだ  
言つても  
税金払えるだけの  
収入がある

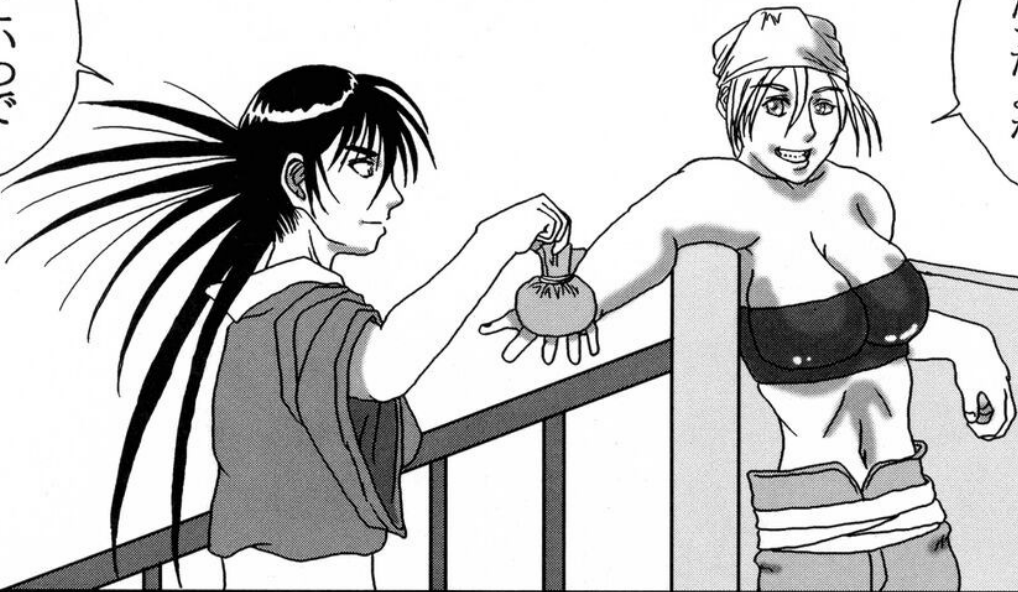
陸続きでいろんな国が  
ひしめき合ってるんだ  
ここもこの先どうなるか  
分からないよ



んおおっ!  
出るうー!



こいつで  
よろしく  
頼むよ



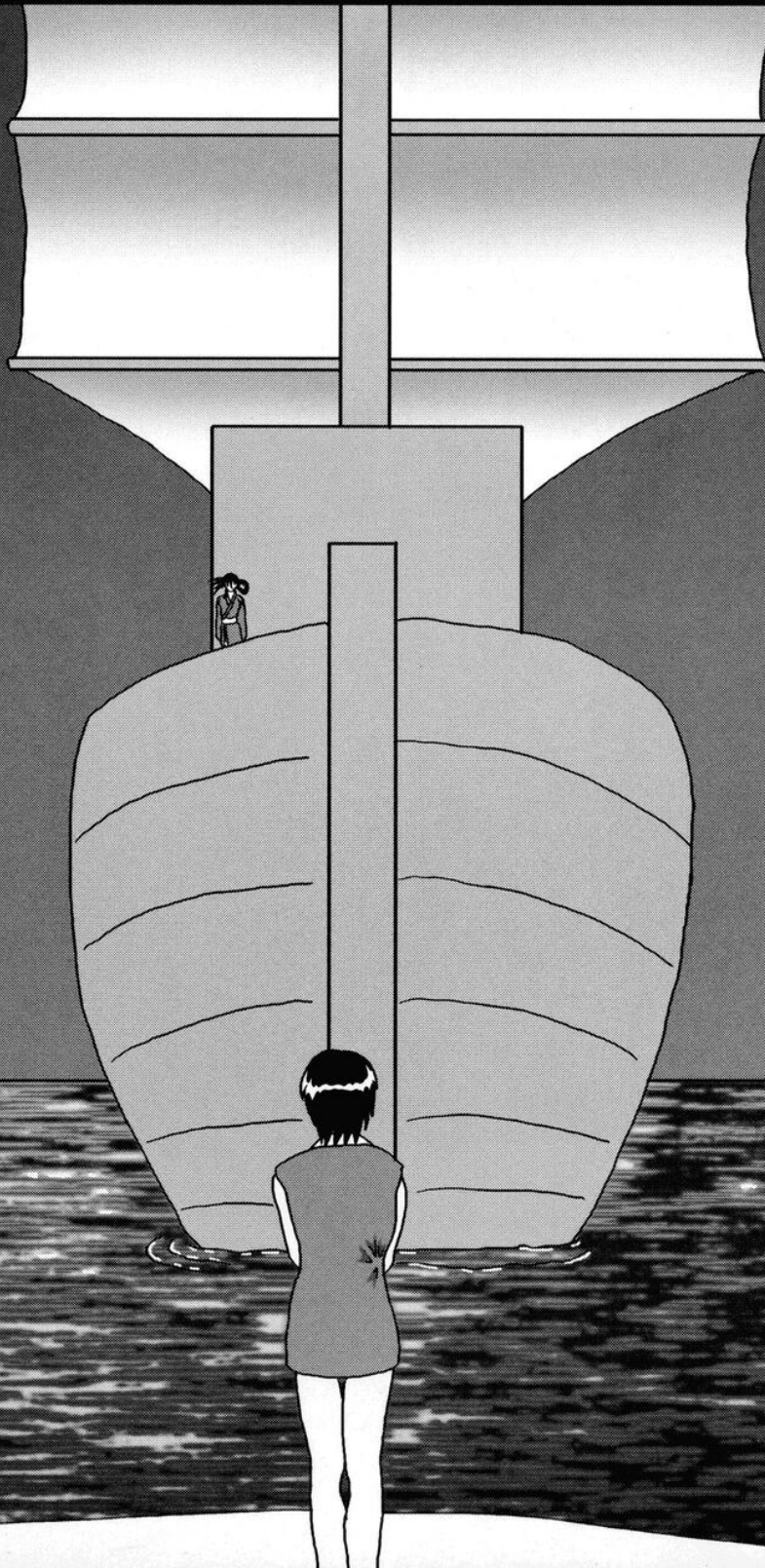
ジャポンまで  
だったよな

焰の  
あねさーん！



あたかも  
もう少し稼いだら  
ジャポンに  
帰りますんでー！

国の人みんなに  
よろしく  
伝えといて  
くださーい！



# 奥付

## 「ふたなりの国物語」

著者 不知火模型店  
印刷 製本 共信印刷株式会社様

本書は  
十八歳未満の方の購読  
無断の複製  
無断の転載等を  
禁止しております